はじめに

平成 29 年度は、新たな保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が平成 30 年度から施行に円滑につなげていく重要な 1 年となりました。

本市においては、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期」の大切さ、そしてその時期の子どもや保護者と密接に関わり、その成長に寄与する「保育者・教員」の重要性に注目し、舞鶴市全体としての教育の「質」の充実及びさらなる向上を目指すこととし、平成 27 年度に「０歳から１５歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を基本理念とする「舞鶴市教育振興大綱」を策定しました。さらに乳幼児期の育ち・学びの特性を踏まえ、「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿」や「乳幼児期に大切にしたいこと」を、保護者と共に市民全体で共有し、家庭・地域・保育所・幼稚園・学校・行政等それぞれの役割を認識したうえで、連携しながら取り組みを進めていくため「主体性を育む乳幼児教育の推進～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～」を基本理念とする「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」を策定しました。

ビジョンの推進にあたっては、本市健康・子ども部　幼稚園・保育所課に乳幼児教育センターとしての機能をもたせ、乳幼児教育コーディネーターや乳幼児教育相談員、発達支援（特別支援）相談員を中心に『乳幼児教育』『発達支援』の分野において、「情報発信」「研究」「研修」「連携」を柱に保護者、保育所・幼稚園、小・中学校などをつなげ、コーディネート・サポートを行ってきました。こうした乳幼児教育センターの設置や乳幼児教育コーディネーターの育成、役割等の調査研究、幼児教育の質向上を図るための推進体制に関する調査研究は、文部科学省「幼児教育の推進体制構築事業」（平成 28 ～ 30 年度まで３年間）の委託を受け、「乳幼児教育ビジョン推進事業」として進めてきました。

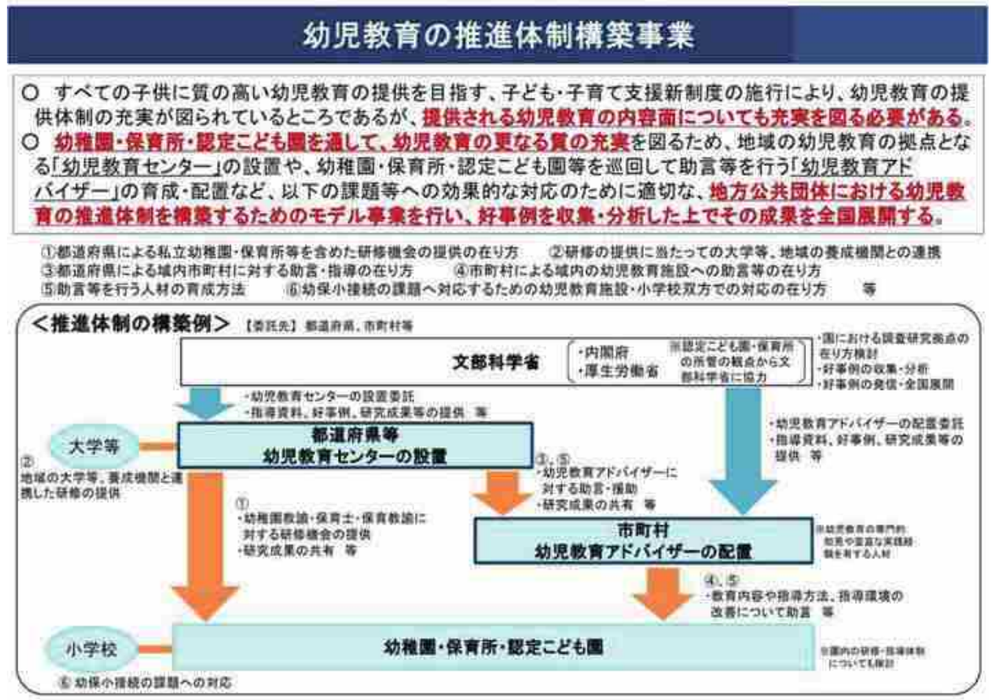
事業の実施及び調査研究にあたっては、舞鶴保育園長会、舞鶴市民間保育園連盟、舞鶴市私立幼稚園協会、舞鶴市小学校長会、舞鶴市中学校長会、子育て団体、市民の皆さまにご協力いただき、意見をいただきながら進めております。また乳幼児教育の質の向上研修におきましては、複数の保育所･幼稚園･小学校に公開をしていただきました。大変お忙しい中、また全国的に保育者不足が叫ばれる中、ご参画いただきました皆さま方に厚くお礼申しあげます。

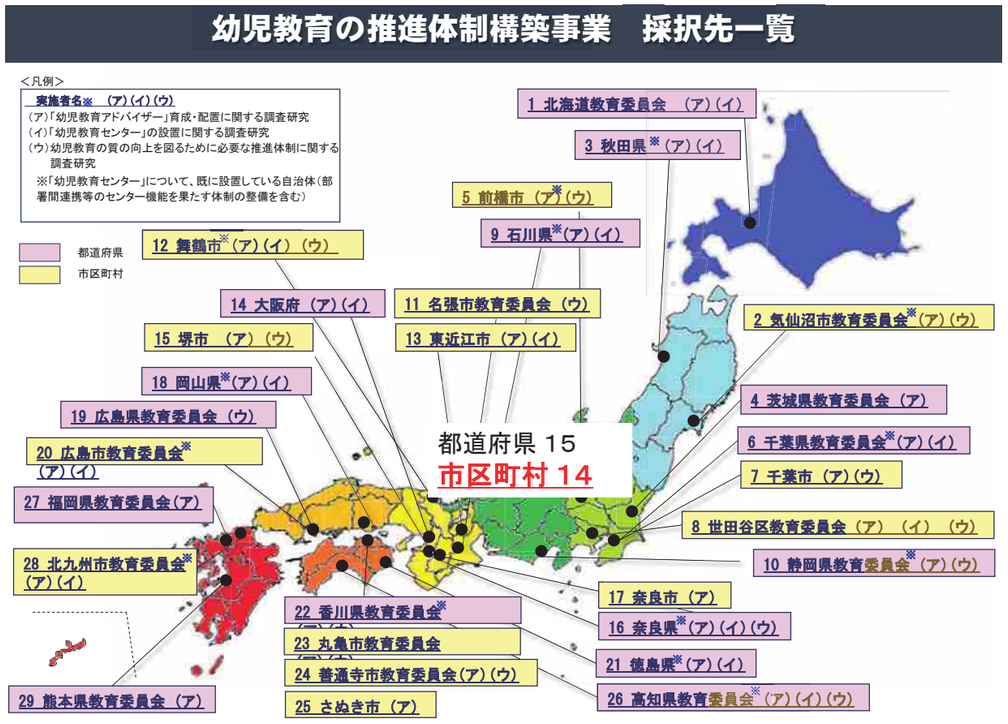
冒頭でふれましたように指針・要領等が改定 (訂) されることや本事業の成果を広く周知するため、今年度は「乳幼児教育フォーラム～夢に向かって未来を切り拓く子どもに～」を開催し、改定（訂）の主旨、内容等を白梅学園大学大学院特任教授　無藤隆先生にご講演いただいたほか、事業報告会として「子どもを主体とした保育」「保幼小連携」の公開保育・授業の報告や保幼小接続カリキュラム策定研究の報告を実施したり、各園のドキュメンテーションの展示をするなど、大変充実した内容とすることができました。このフォーラムには、市内の関係機関はもとより、構築体制推進事業受託自治体、近隣府県市町村の行政、保育所・幼稚園・こども園の皆様にもご参加いただき、盛況に終えることができ、事業に参画いただいた市内の保育所・幼稚園の保育者、小・中学校の教員の皆様に感謝申しあげます。

また、昨年度に引き続き、神戸大学大学院准教授の北野幸子先生には、「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議会長」及び「乳幼児教育の質の向上研修　全体及び子どもを主体とした保育研修講師」として、鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生には、「乳幼児教育の質の向上研修　保幼小連携研修講師」として、兵庫教育大学大学院教授の溝邊和成先生には、「舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議会長」及び「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議副会長」として事業に携わっていただき、多大なるご尽力をいただきましたことに深く感謝いたします。

全市的に連携を密にして展開している本事業は全国からも注目いただいており、今年度も多くの行政や研究者の方々が視察に舞鶴までお越しになりました。本報告書には、保育者・教員の皆さんが工夫しながら実施された取り組み、実施して感じられた成果や課題などを記しています。今後も舞鶴市のよりよい乳幼児教育の推進のための体制の構築、研修手法について、皆さまと共に学びながら、力を合わせて進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

文部科学省「幼児教育の推進体制構築事業」





講師と研修内容

指導講師	主な内容
神戸大学大学院 准教授　北野　幸子 	**「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議　会長」** **「乳幼児教育の質の向上研修　全体及び子どもを主体とした保育　講師」** ※子どもを主体とした保育（プロジェクト型保育） ・遊びや生活、身近な自然の中で、子どもたちが興味や関心を抱いていることからトピックスを見つけ出し、調べたり、深めたりしてさまざまな活動に発展させる。 ・子どもたちの主体的な活動を支援するため、保育者が、子どもの興味や発見、疑問を見つけ出し、さまざまな活動へ発展させる力や、遊びたくなる環境づくりをするための手法を学ぶ。 ※ドキュメンテーション ・子どもの姿やことばを記録し、保育者の意図や考察を加えて、園での遊びや生活の中で子どもたちがどのように育ち、何を学んでいるかを可視化する手法。 ・保護者や第三者への発信、子ども同士の遊びをつなぐ、保育者の振り返りによる研修や保育の展開に活用できる。
鳴門教育大学大学院 教　授　木下　光二 	**「乳幼児教育の質の向上研修保幼小（中）連携　講師」** 保育所や幼稚園と小学校・中学校の連携を深め、子どもの育ちや学びをつなぐ。 連携協力校・園での生活科の連携活動の実践交流を中心として、保育所・幼稚園と小学校とのお互いの理解を深めながら、それぞれの「ねらい」を持った連携活動の充実を図る。
兵庫教育大学大学院 教授　溝邊　和成 	**「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議　副会長」** **「舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議　会長」** 舞鶴市乳幼児教育ビジョン基本方針「2保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実」「（2）乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実」において、保育所・幼稚園の年長児と小学校の1年生が1年を通じて連携活動ができるように取り組むため、各園・校において、年間計画やカリキュラムを作成することとしており、この作成に向け、関係者から幅広い意見を聴くための会議。保育所・幼稚園の年長児から小学校1年生の2年間を通じて、育ってほしい力を保育所・幼稚園と学校が意識し、互いに考え学び合いながら、1年を通じて連携活動が展開できるよう、「舞鶴版保幼小接続カリキュラム」を作成する。

講師のことば

神戸大学大学院 准教授　北野　幸子

舞鶴市の研修に携わらせていただき、6年がたちました。今年は大きな飛躍の年となったように思います。何よりも保育所、幼稚園、小・中学校の市の次世代育成に携わる専門職が連携し、さらには、そして市民の方々も参画してくださって、乳幼児教育ヴィジョンが作成され、その浸透と発展がみられた年であったように思います。

保育の実践については、乳幼児期の発達に適した保育とは、遊びと生活を中心とした保育であり、この浸透を強く感じることができました。

国際化、情報化、人工知能化が進むこれからの時代の子どもたちに育みたい、いわゆる21世紀型スキルは、気づく力、感じる力、考える力、つながる力、創造力等であることが指摘されて久しいです。いわゆる暗記型、結果主義の教育ではなく、応用・展開型、文脈主義の教育が乳幼児期から保障されることが今後ますます大切であると私は考えています。保育者の指示のもとシナリオ通りに作業をしたり、できた・できないばかりにこだわったり、到達のパーセンテージを問うような教育がこの地舞鶴では改変していっているように思います。

公開保育では、各園で活き活きと自分の興味関心を起点として、没頭して遊び、探求する姿がみられました。特に、注目したのは、園長のリーダーシップのすばらしさと、個々の先生方の自己発揮が図られている様子です。各園で保育実践の変化がみられました。保育には満点はなく、答えが多様で、保育者の保育の質への意識が実践の発展につながることを改めて考えさせられました。同一園に2年連続で公開保育に伺うおり昨年度の記録を読み返してから伺ったのですが、議論されている点がすべて改善されていたことに感動しました。

ドキュメンテーション研修については、保育者のキャリア別、年齢別、作成方法の開発など多様な工夫が施され、研修開発もすすめることができました。

舞鶴市は、全国からますます注目されています。今年度は冒頭の全体会から国立教育政策研究所の掘越紀香先生を、12月のフォーラムでは無藤隆先生を招聘することが叶いました。

日本保育学会では、指針・要領のトリプル改訂（改定）にあたり、汐見稔幸会長の声掛けで各ブロックの理事・評議委員会企画で研究会を企画することとなりましたが、汐見先生自らが、近畿ブロックの企画については、是非、舞鶴の試みをシンポジウムで紹介してほしいとのご推薦をいただきました。2月17日に、環太平洋乳幼児教育学会日本支部会と保育学会近畿ブロック理事・評議員会との共催で開催されたシンポジウムにて、舞鶴の試みを紹介していただき、大変好評でした。

日本保育学会副会長でもあられる大豆生田先生からは、全国私立保育園連盟主催の保育総合研究会の分科会の登壇者として、是非、舞鶴の民間園を紹介してほしいとの打診もあり、市と相談してさくら保育園さんを推薦させていただきました。

舞鶴の保育実践開発及びに保育者研修開発の試みは来年度も続きます。今までの舞鶴の発展には、市長の乳幼児教育に対する深い理解と強いリーダーシップがあります。そして特に他地域に比べて突出していると私が感じるのは、行政関係者の熱意ある協同です。公開保育や研修に行政担当者がこれほど毎回参加されている市は他に少ないと思います。来年度は、新しいシステム創り、制度化、研究への発展など、さらなる飛躍を期待しています。

講師のことば

鳴門教育大学大学院 教授　木下　光二

平成 29 年度　舞鶴市原稿　　連携研修会と教師の学び

今春、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂が全面実施となり、小学校の学習指導要領の改訂も間近です。新しい局面を迎える今、それぞれの校園で何を残し何を変えればよいかを吟味し、質向上に向けての保育改善や授業改善の具体的なビジョンをもつことが大切です。連携や接続の取り組みは､校園それぞれの異なる文化から学び合えるとても貴重な機会です。昨年に引き続き、今年度も連携研修会における小学校の先生の記録を紹介します。

1　お互いに学びのある活動の大切さ

保幼小連携は、1 年生が幼稚園の園児を招待し、教えてあげるというイメージでした。実際に昔遊びをお店屋さんのようにブースを作り、教えてあげる活動をしていました。研修を受ける中で、園児がお客さんになっている学習だとお互いの学びにならないと学びました。活動や子ども同士のやり取りの中で 1 年生が園児から学ぶことも大切なことなのだと教えていただき、1 年生も園児も考えを出し合える連携をしたいと考えるようになりました。

2　環境設定の大切さ―1 年生の秋の自然物を使って「作ろう遊ぼう」の学習から－

楽しく遊べるようにするためにはどうしたらよいかと試したり、工夫したりすることを繰り返す中で試行錯誤する力を養いたいと考え、学習を進めていきました。おもちゃを作るためには、必要な材料があることや思うようにくっつけられないなど思うようにできないことがでてくると予想されます。そのときに、どうやったらうまくできるだろうかと思考を深められるようになってほしいと考えました。

3　失敗も大切

幼稚園や保育園の先生からは、失敗からどう学ぶかということを大切にされている話を聞かせていただきました。今までは、トラブルが起きないように、みんなが成功するようにと願いたくさん準備していました。朝顔の栽培でも、全員が育つようにと願い、夕方に水やりをしてやることがありました。今年度の学級では、2 人の児童が朝顔の水やりをあまりしない子でしたが、少し様子を見守ることにしました。日がたつにつれて、水やりをする子に比べ、葉っぱの大きさ、つるの伸び方が全く違うことが目に見えて明らかになってきました。その 2 人は、「ぼくのぜんぜんおおきくならん」と水やりを始め出しました。毎日、朝来ると水やりをするようになり､「先生、大きくなったで」と朝顔の成長を喜ぶ姿が見られました。子どもの様子にあった声かけや支援をすることで気づいたり、行動が変わったりするのだと実感しました。

幼小間の壁や段差はどこから生まれているのでしょう。教育課程、教科書や時間割、学び方の違い、遊びと学習等、いろいろ挙げられますが、なにより先生方の意識が変わることが重要です。記録は３つの視点でまとめられており、どれも重要なことばかりです。舞鶴市が連携研修会を始められて８年ほどの歳月が流れましたが、その１つの成果をここに見ることができます。今後も主体的で熱心な取り組みに期待しています。

講師のことば

兵庫教育大学大学院 教授　溝邊　和成

学び・育ちの事実集積の充実から次のステージへ

今年度も「舞鶴市教育振興大綱（平成 27-30 年)」のもと「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども」の育成に向けて、日々様々な取り組みが実施されてきました。公開保育・教育に見られる子どもの様子やその記録、あるいは本会議に集まる事例の数々、そして熱心に行われる議論・・・。私自身も公開保育園・幼稚園・小学校に赴いたり、会議に出席したりして感じたことですが、これらは紛れもなく､「0 歳から 15 歳までの切れ目のない質の高い教育の充実」に向けた「乳幼児教育ビジョン」と「小中一貫教育」の取り組みが融合し始めてきたエビデンスだったと。子どもの特性を踏まえつつ、子ども自身に主体性（学び手意識）の向上を図るカリキュラムが動き始めたとも思いました。先日も昨年より先生方の語りが変わってきておられるのに気付きました。子どもをとらえる際の視点やそこで得られる事実知が豊かに共有されてきたからと推察できます。10 の視点を基軸として乳幼児と児童・生徒の双方を見ている効果ともいえましょう。「なぜ、またスコップ取りに行くの」から「もう一度、砂を確認するために、取りに行ったんだ」というふうに。あるいは、文字を書く場面で「わからん」という園児への小学生の動きを一緒に書いて当たり前だととらえず、「絵でもいいんやで」「～って書きたいの」など園児にかける言葉の広がり、変化・変容を育ちとして語っていく。また比較したり、たとえで説明したりする検証方法や論理展開の共通性に納得する…などなど。

こうした丁寧な子どもの学び・育ちの事実をとらえる教師の眼差しの共有が次のステージへの移行を容易にしてくれると予想します。そのステージの移行こそが、子どもの一連の活動のまとまり（単元）への共通理解であり、その連続的な学び・育ち（カリキュラム）の共有になるのです。ここで得られる形式は、保育案や指導案において可視化され、より一体化されたプログラムの提供、カリキュラムの創出となりましょう。その完成は関係者の中でも大きな期待が寄せられているようですが、今年度の取り組みからすれば、次年度もより確かな歩みが見られ、カリキュラムも間違いなく完成すると確信しています。

なお、一つ気をつけておきたい点があります。それは、カリキュラム作成に向けて出発点となった 10 の視点が途中で融合されたり、解消されたりするような臨界点があるかもしれないということです。その可能性の有無を片方に置きながら、慎重に取り組む必要もあるかと思います。なぜなら、そうすることによって、これまで意識下に上らなかった事実が見えてくる可能性があるからであり、カリキュラムの固定化を許さない、子どもの事実を反映した柔軟性を長所とするカリキュラムになると考えるからです。さらに飛躍的にいえば、子ども自身が学び・育ちの確認・調整をするセルフ・カリキュラム・マネジメントの力を身につけることにつながり、究極としてそれを求めていると思うからです。これからもそんな舞鶴の子どもの成長を期待し続けていこうと思っています。来年度も皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

舞鶴市の現状

1　人口、就学前児童数他

■人口　　81,926人（H30年1月推計）

■就学前児童数　4,213人（H29年度当初）

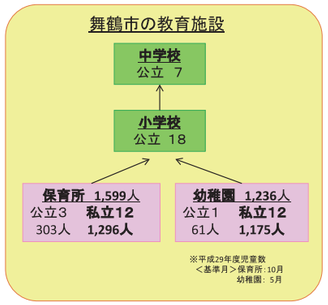
傾　向

○少子化

（10年前と比べ就学前児童数は約1,000人減）

○人口減少

（この10年間、年間約1,000人減）



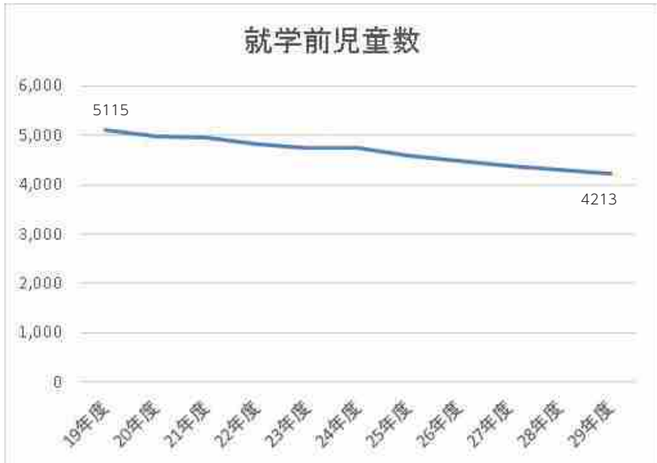
特　徴

○保育所も幼稚園も私立の割合が高い

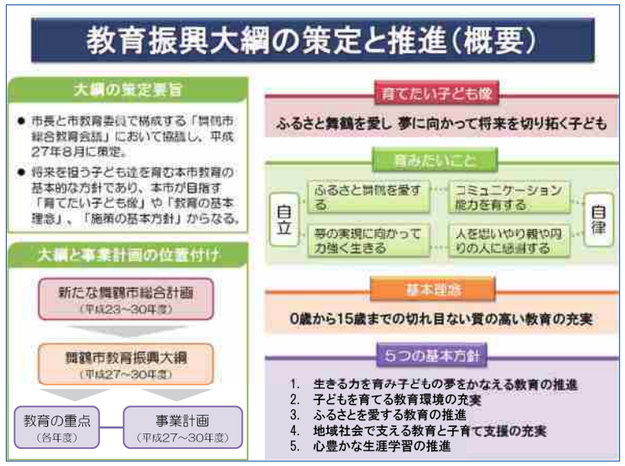
○小・中学校は公立のみ

	平成 19 年度	平成 29 年度
人口	92,529 人	81,926 人 （30 年 1 月推計）
就学前児童数	5,115 人	4,213 人

表1　舞鶴市人口･児童数



2　教育振興大綱、乳幼児教育ビジョン

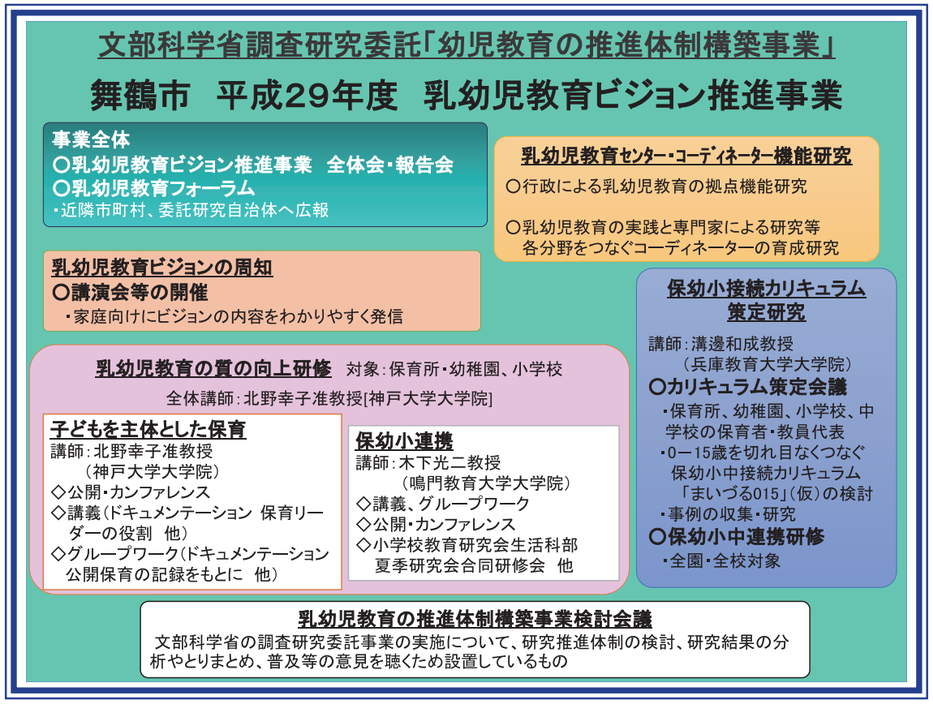


乳幼児教育ビジョン推進事業

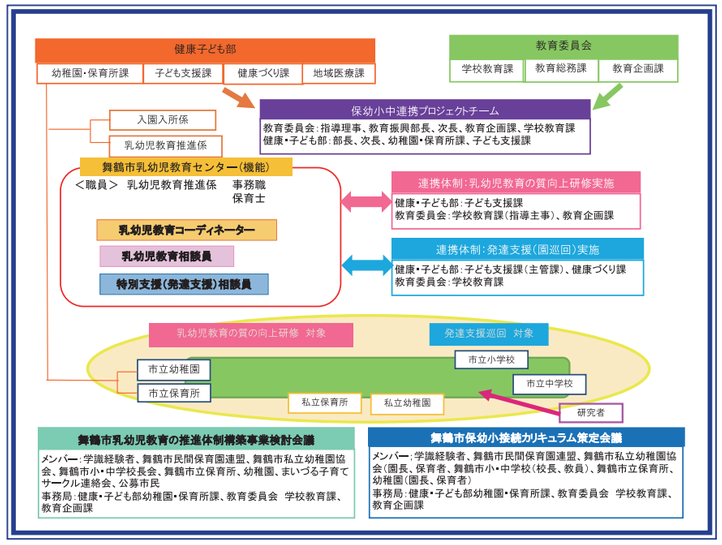
1　事業の目的

舞鶴市乳幼児教育ビジョンについて、市民や地域団体への周知・普及に努めるとともに、ビジョンに基づいた乳幼児教育の質の向上へ向けた研修や関係機関との連携の充実を図る。また文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の採択を受け、事業を通して、乳幼児教育の質の向上へ向けた推進体制構築のための調査研究を行う。

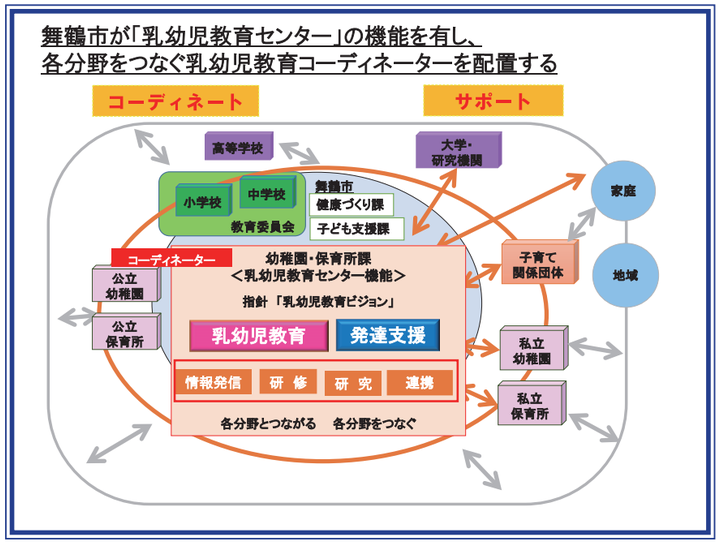
乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告



乳幼児教育センターの機能として、乳幼児教育ビジョンにもとづき、『乳幼児教育』『発達支援』の分野において、「情報発信」「研究」「研修」「連携」を柱に調査研究をすすめてきた。センター機能を有する幼稚園・保育所課　乳幼児教育推進係と乳幼児教育コーディネーター、乳幼児教育相談員、発達支援（特別支援）相談員が共に、保育所・幼稚園、保護者、小・中学校などの様々な分野をつなげ、コーディネート・サポートをしている。（図３　４参照）企画・運営にあたっては、教育委員会等とも連携をしている。

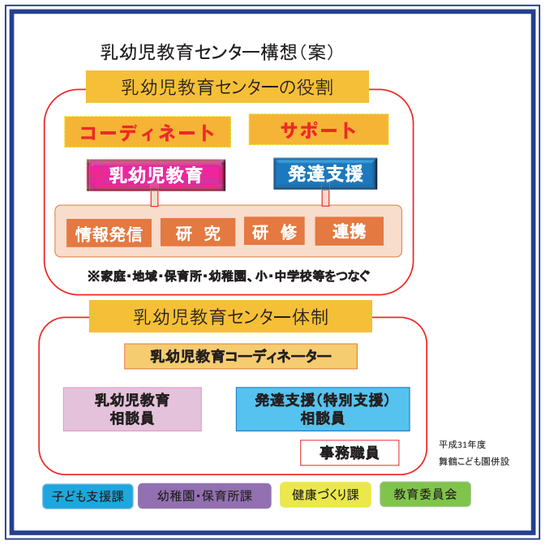


2　概要　体制



研　究

1　乳幼児教育センター設置、乳幼児教育コーディネーター配置・育成に関する推進体制について



乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

第４章　質の高い乳幼児教育の推進に向けて
１　乳幼児教育ビジョンを推進するための体制づくり
市には、関係者の連携の機会の提供等、各分野をつなぐコーディネート機能が求められています。
さらに、全市的な研究・研修の実施、情報発信等、保育所や幼稚園、学校等、個々では難しい取り組みを実施し、各園・校が行っている活動をサポートする機能も求められています。
　市はこうしたコーディネートやサポートを行う乳幼児教育のセンターとしての役割があります。
「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」より

（１）乳幼児教育センター

乳幼児教育センターの機能として、乳幼児教育ビジョンにもとづき、『乳幼児教育』『発達支援』の分野において、「情報発信」「研究」「研修」「連携」を進めるため、以下の内容を実施した。
…事業一覧Ｐ 34 ～ 37　参照

情報発信

◎乳幼児教育ビジョンの周知（保護者・地域への情報発信）
乳幼児教育の質向上に向けた園・校の取り組みや乳幼児教育ビジョンの内容の理解を深めるため、講演会を開催し情報を発信した。

◎研修ニュースレター（保幼小中の教員・保育者へ情報発信）
公開保育・授業、研修等での学びをまとめ、研修ニュースレターとして作成し、保育所・幼稚園、小・中学校へ配布した。

研究・研修・連携

◎乳幼児教育の質の向上研修（研修、保幼小中の連携、研究者の連携、研修方法の研究）
「子どもを主体とした保育（プロジェクト型保育）」「保幼小連携」「可視化の記録（ドキュメンテーション）」の３つのテーマにもとづいて、大学の研究者と連携し、保育所・幼稚園、小・中学校の保育者・教員が共に学ぶ公開保育・授業、講義、グループワーク、カンファレンス等の研修を実施した。

◎保幼小接続カリキュラム 策定研究（研究、保幼小中の連携、関係機関との連携、研究者との連携）
舞鶴市教育振興大綱の基本理念「０～ 15 歳までの切れ目ない教育の充実」にもとづき、保育所・幼稚園の５歳児と小学校１年生の接続期だけでなく、15 歳までを見通したカリキュラム「まいづる０１５」（仮称）を作成する。（平成 30 年度策定予定）保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員の代表からなるカリキュラム策定会議を持ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」をベースにしながら「乳幼児教育ビジョン」「小中一貫教育」をつないでいくカリキュラムを作成する。

情報発信・研修・連携

◎全体会、報告会・乳幼児教育フォーラム（市民や各自治体・関係機関への情報発信、研修、保幼小中の連携）
乳幼児教育ビジョンの周知と乳幼児教育ビジョン推進事業の成果等を、近隣自治体、構築事業受託自治体、近隣の保育所・幼稚園・こども園等へ周知するため、乳幼児教育フォーラムを開催し、講演会、報告会、ドキュメンテーションの展示等を実施した。

コーディネート、サポート

◎園・校訪問・・・訪問一覧Ｐ 38 ～ 39　参照
乳幼児教育コーディネーター及び相談員が、保育所・幼稚園・小学校の公開等の支援、サポートを実施した。
■公開保育・授業を行う保育所・幼稚園・小学校へ講師からのアドバイスの伝達、指導案の作成の助言、事前勉強会、事後の振り返りの実施等のバックアップ。
■保育リーダーへの園内研修等の研修方法についての助言、サポートを実施。
■発達障害児支援事業（子ども支援課所管）のスタッフとして園巡回。

◎就学前親子の就園支援
公立幼稚園で実施している就学前の親子が参加する事業に乳幼児教育コーディネーター及び相談員が携わり、保護者と保護者の希望する園（公私立・園種問わず）とのコーディネートを行った。

研究

◎乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究（研究）
乳幼児教育の質の向上へ向けた推進体制構築のための調査研究として乳幼児教育センター・コーディネーターの機能・役割について研究している。
■行政による乳幼児教育の拠点機能（センター、コーディネーター）の研究
■研修方法、研修システム、指導案等の研究
■各分野をつなぐコーディネーター育成の研究

（２）乳幼児教育コーディネーター、相談員

乳幼児教育・発達支援（特別支援）の専門的な知見や実践経験を有し、センターが行う業務の企画・運営に携わるとともに、保育所・幼稚園・学校等を訪問し、各園・校の取り組みのコーディネート・サポート及び就園サポートを行う。

＜配置状況＞　３名
◎乳幼児教育コーディネーター：１名（常勤職員）
　公立幼稚園副園長兼市教育委員会幼児教育担当指導主事（元公立保育所保育士）
◎乳幼児教育相談員：１名（非常勤職員）
　元公立保育所長・元市保育所所管課長
◎特別支援教育相談員：１名（非常勤職員）
　元小学校教諭・元特別支援教育コーディネーター、子ども発達支援施設巡回相談員
　現在は、後進育成として乳幼児教育コーディネーターの他に公立保育所保育士を幼稚園・保育所課乳幼児教育推進係に１名、子ども支援課　子ども福祉係（主に発達支援に関わる園巡回、研修を担当）に１名配置し、共に事業をすすめている。

＜訪問回数＞　　97 回

乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

乳幼児教育コーディネーター、相談員の役割

情報発信

- 乳幼児教育ビジョンを市民に発信→講演会の実施
- 保幼小中の保育者・教員にビジョンの内容を周知し、実践→公開保育、ドキュメンテーション（可視化・記録）等の研修を通じて
- 乳幼児教育フォーラム→講演会・報告会の準備、実施、指導者との連絡・調整、報告者との調整
- 研修ニュースレターの作成

研　修　**連携**

- 公開保育（保育所・幼稚園）
  →公開園の事前勉強会の実施、打ち合わせ、園訪問（指導案や環境等について相談）
  →指導者（大学研究者）との連絡・調整、当日の進行
- 研修（可視化の記録）→事例等の研修資料の準備、指導者との連絡・調整・当日の進行
- 保幼小連携公開授業・保育（保育所・幼稚園・小学校）
  →教育委員会と連携し、学校、園との調整、指導者との連絡・調整・当日の進行
- 保幼小中連携研修→教育委員会と連携して実施、指導者との連絡・調整・当日の進行
- 保幼小接続カリキュラム策定→教育委員会と連携して会議を運営、カリキュラム案の作成
- 発達支援→園への巡回、保護者への支援（就園前の親子ルーム実施）、関係機関との連携

研　究

- ドキュメンテーションの書き方とその効果（保育者、子ども、保護者の視点から）
- 研修方法、研修システム
- 指導案、カリキュラム

コーディネート
サポート

2　乳幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制について

第３章　本市の目指す乳幼児教育の基本方針
１　質の高い乳幼児教育の充実
（５）保育者の質の向上の推進
質の高い乳幼児教育の推進には、保育者自身の質の向上は欠かせません。～中略～
市全体で、人的環境を整えると共に、公私、職種、園・校種の枠を越えて、学び合い、同僚性を高めていくよう取り組みます。また、研修で学んだことを園内に広げるためにも、保育・研修のリーダー等の人材育成を目指します。

２　保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実
（２）乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実
保育所・幼稚園、小学校の保育者・教員同士が、交流・情報交換、研究会を通じて、話し合い、学び合い、理解し合うことが必要です。乳幼児期・児童期の発達を知り、お互いの教育の方法を知り、保育所･幼稚園は遊びの中の学びを小学校以降の教科で、小学校は教科を遊びや体験、５領域でとらえることも必要です。
　乳幼児教育・学校教育、それぞれの教育を充実させることが、連携の充実につながります。
「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」より

（１）子どもを主体とした保育（プロジェクト型保育）

①対象：保育所・幼稚園

※乳幼児教育の理解を促し、乳幼児期の育ちと学びを小学校以降の学びにつなげるため、小学校・中学校にも研修への参加を呼びかけている。

②実施方法

■公開保育
公開園の実践者：各園の公開保育の研究テーマ、視点にもとづいた保育を実践する。
他園からの参加者：保育所・幼稚園の公開保育を見学、子どもの姿を記録する。

■グループワーク
公開園の実践者と他園からの参加者が公開保育の研究テーマ、視点にもとづいてグループに分かれて協議する。

■カンファレンス
公開園の実践者と他園からの参加者がいっしょに大学の研究者より指導・助言を受ける。

③実施の工夫点

■公開園
◎事前勉強会の実施
公開４園が事前に集まり、乳幼児教育コーディネーターのサポートのもと「指導案」「ドキュメンテーション」について学び合う。
◎公開保育の研究テーマ・視点の設定
公開保育はその日だけのイベントではないことから、何を目指し、何を学ぶかを事前に明確し、より学びの多いものにしていくため以下の工夫を行った。
・乳幼児教育コーディネーターが園を訪問し、その園の特徴や現状や課題について保育者と一緒に検討し、どのような保育を目指していくかテーマを決める。このテーマに向かって保育を実践し、公開保育では何を見てほしいのか、何を学びたいのかを視点として示す。

■参加者
また、参加者が公開保育を見る際に、何をどのように見ていいかわからない、ただ、見ているだけといった課題を改善するために以下の工夫を行った。
・公開保育のテーマ・視点に沿って保育を見とり、子どもの姿を記入シートに記録し、グループワークの中で検討し合う。
・前日に配布された公開保育テーマ・視点や指導案を、読んでから参加する。

■保育を語るグループワーク
大学の研究者の助言に頼るだけでなく、保育を実践した保育者自身もグループワークに入ることで､参加者とより具体的な議論や意見交換を期待できる｡また､保育を語り合う文化の熟成を目指す。

④効果～アンケート結果より～

※結果については、自由記述によるものであり、その回答をおおまかな傾向としてまとめたものである。よって、１人の回答が複数の項目に該当することもある。
※公開保育研究テーマ・視点にもとづいてアンケート結果を考察し、評価する。

■公開保育の研究テーマ・視点の設定

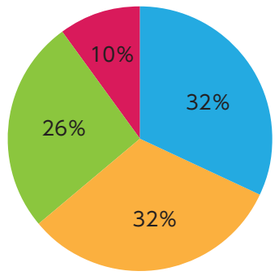
A 園
【公開保育研究テーマ】
毎日、子どもペースで遊ぶ「子ども時間」から１日がスタートし、子ども達が自らの興味、関心をもとに遊びを選び、異年齢で交流し合いながら活動している。又、そこで得た発見や気付き、つまずきなどを保育者と子ども達がふり返りの中で共有し、明日の保育へとつなげている。

乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

【公開保育の視点】

子ども自身が興味・関心をもとに選んだ遊びの中で、子ども自ら考え遊んでいるか、工夫をしているか、自分の思いや発見を言葉にしているか、友達同士で伝え合っているか、その中で学びを深めているかを意識しながら保育している。年齢発達なりのこのような子どもの姿を見とってほしい。

A園



- ①子ども達が自分の好きな遊びを見つけ、考えたり工夫しながら夢中になって遊び込む姿が見られた。
- ②子どもの興味・関心に基づき、意図を持って環境が整えられていた。
- ③保育者が子どもを肯定的に受け入れ、さらに意欲や好奇心を促すような言葉かけや関わりが見られた。
- ④その他

アンケートより抜粋

◎子ども主体の遊びをされていて子どもたちがのびのびと夢中で遊んでいる姿がとても印象的でした。環境設定の上でも余分なものがなく、身近で子どもたちが取り組みやすいものがそっと用意されていて、保育室の配慮などにも工夫がされているな・・・と色々なものが新鮮に感じられました。先生はもちろん、子どもたちも自分のやりたいことに熱中しているので、無駄な動きやあまり関係のない話をしている子も少ないのにおどろきました。それぞれが、色々な場所で目的を見つけて遊んでいる姿があり、最後まで集中してやりきっている持続力がすばらしいなと思いました。

◎子どもたちも保育士たちも楽しそうに笑顔で活動している姿がみられ、また、子どもたちだけの関わりが強く感じ、保育士があそびにはいりこまない、必要なポイントを見のがさず、援助されている感じがしました。環境が整っていたり、各部屋の先生の工夫、こだわりが伝わってきました。

◎環境がとても充実していると感じました。なによりお店屋さんごっこでは、イメージしやすい道具、本物の道具が用意してあり、イメージしやすいのと、家庭でのことが再現しやすくなっていると感じられました。子どもの「やりたい」をしっかりと受け止めておられることが環境を見て感じられました。

◎先生方の言葉が否定的ではないと感じた。子どもに共感していく言葉がけだった。

◎環境構成が子どもたちの思い、意欲などにもとづいてとても考えられていて勉強になりました。子どもたちもあそびに集中していて「あれをしたい」「こんなものをつくりたい」という思い、またできたものを見てほしいという思いが感じられ、普段から先生方に認めてもらったり、ほめてもらったりしながら次の意欲につながっているんだなということがよくわかりました。

【考　察】

アンケートの回答の多くは、「①子ども達が自分の好きな遊びを見つけ、考えたり工夫しながら夢中になって遊び込む姿が見られた。」「②子どもの興味・関心に基づき、意図を持って環境が整えられていた。」「③保育者が子どもを肯定的に受け入れ、さらに意欲や好奇心を促すような言葉かけや関わりが見られた。」の３つの内容が重複していた。子どもの姿、環境構成、保育者の関わりは保育そのものであり、公開保育の視点では「子ども自ら考え遊んでいるか、工夫をしているか、自分の思いや発見を言葉にしているか、友達同士で伝え合っているか、その中で学びを深めているか、年齢発達なりのこのような子どもの姿を見とってほしい。」を設定していたが、子どもの姿は環境や保育者との関わりから見えてくるものであり、分けて見とることは難しいと言える。そのため、結果としては、子どもの姿、環境、保育者の関わりの回答がほぼ同じ割合となったのではないか。

B園

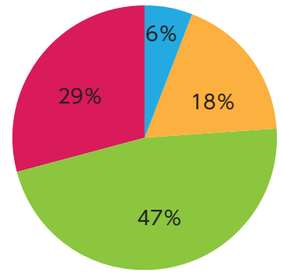
【公開保育研究テーマ】

◎１歳児～５歳児まで 15 名の子どもたちを自然豊かな環境のもと、少人数でアットホームな雰囲気を大切にしながら保育している。異年齢の子ども同士が遊びや生活を通じて関わり合いながら、人と人とのつながりを深めていけるように見守っている。

【公開保育の視点】

◎異年齢、少人数の環境ならではの関わりや子どもの育ち

B園



- ①異年齢の少人数の中で落ち着いて、安心して遊んでいる。
- ②少人数のアットホームな家庭的な環境がよかった。
- ③保育者が一人一人をゆったりと受け止め、丁寧な関わりをしていた。
- ④その他

アンケートより抜粋

◎ゆったりとした環境で保育士も子どもたちも家庭のように関われていて、一人ひとりをしっかり受け止められていたように感じた。

◎先生方が子どもの目を見ながらゆったりと関わっておられる姿が、よりあたたかかな空間をつくりだしているのだろうなあと感じました。

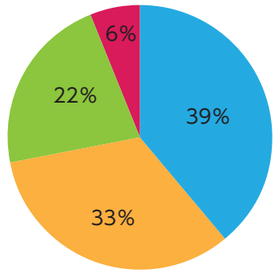
◎異年齢児との関わり、少人数の保育ということで、落ち着いて安心して過ごせているのではないかと思いました。

【考　察】

アンケートの回答には、視点にあるように少人数ならではの保育者の丁寧な関わりなどに関するものが約半数を占めていた。テーマや視点の中の「異年齢」「少人数」や「アットホーム」といったキーワードは出てきているが、子どもの姿や子ども同士の関わりについての回答は少なかった。子どもの育ちや学びの部分は、見とることが難しかったとも言える。

C園
【公開保育研究テーマ】
人が人として育つための土台を形成すること、想像力、創意工夫する力、探究心や表現力、意欲、粘り強さなどの非認知能力を育てることを大切にし、将来大きな木へ成長させるため、心のねっこを育てることを保育目標としている。子どもの興味･関心をもとに環境を構成し、その遊びを充実させ、友達との関わり、人との関わりを深める保育を目指している。
【公開保育の視点】
①子どもの興味・関心をもとに環境が構成され、遊びが展開しているか
②保育者や友達と関わっているか
このような視点の姿が見られるか保育の中で見とってほしい。

C園



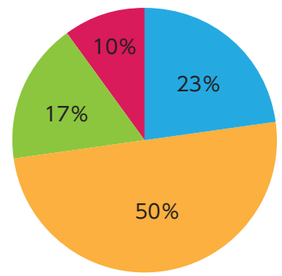
- ①好きな遊びをする中で、考えたり、工夫したり、友達との会話を楽しんだりしていた。
- ②木の実、土等の自然物を取り入れ、自然の中で遊ぶ体験など自然豊かな環境だった。
- ③保育者が子どもの思いに寄り添い見守ったり、認めたり、肯定的な関わりが見られた。
- ④その他

アンケートより抜粋
◎環境はとてもうらやましく、その環境から保育（あそび）の中に自然との共存があり、日々の姿があそこの中心（子どもがまん中）であるのを感じた。　先生方の雰囲気がおだやかで見守る中のことばがけが、子どもが考えたり学びあえるもでありよかった。
◎子どもたちにとって魅力的だと思う環境がたくさんあり、保育者がたくさんの言葉がけをしなくても、子どもたちだけで遊びに必要な道具を考え、そろえ、言葉でやりとりをし、イメージを共有していた場面が見られ、日々の遊びの積み重ねや安心感をもって遊び込んでいる姿が印象的でした。園内にはどんぐり転がしやどっちが重いかな？まつぼっくりを小さい順に置き、一番にひらくのはどれ？と秋の自然物を使った遊びや比べるコーナーがあり、とても身近で子どもたちが遊びの中で比べ学びがある環境が良いなと思いました。
◎子どもたちがとても穏やかに遊んでいたのが印象的でした。友だちへ話しかける言葉が優しかったのも印象的でした。日頃受けとめられ、心が安定しているためだと思う。

【考　察】
「子どもの興味・関心をもとに環境が構成され、遊びが展開している」「保育者や友達と関わっている」子どもの姿を見とるという視点であったが、A園同様、子どもの姿は環境や保育者との関わりから見えてくるものであり、分けて見とることは難しいと言え、環境や保育者の関わりに関する回答も多かった。

D園
【公開保育研究テーマ】
子どもの主体性を育む保育を目指し、乳児期には、安心できる保育者との愛着・信頼関係をきずくために応答的な関わりを大切にしている。幼児期はそれを基盤に、子どもが興味・関心を起点にして遊びを広げ、より深く考えたり、探究したりできるように環境を構成し、関わっている。その中で得た様々な発見や気付きを保育者や友達と共有し、次の遊びへとつなげている。
【公開保育の視点】
安心できる保育者のもとで好きな遊びを選び楽しんだり、年齢なりに自分の思いを行動、表情、言葉などで表現しようとしたりしている姿や、興味・関心を起点に遊びを広げ、考え工夫する中で様々な発見をしたり、友だちや保育士に伝え合ったりしている姿を見とってほしい。その中で、保育者は、子どもが主体的に遊び込める環境を構成し、関わっているかを見とってほしい。

D園



- ①安心して好きな遊びを思いっきり楽しむ姿、子ども同士で考え、話し合う姿、自然に異年齢でつながる等が見られた。
- ②自然物を取り入れたり、作品等の掲示物の工夫をしたり、年齢に合わせた玩具等を手作りしたり様々な環境の工夫があった。
- ③保育者の受止める、待つ、見守る、つなげる関わりや肯定的な言葉かけが見られた。
- ④その他

アンケートより抜粋
◎年長児は担任の先生が入らなくても自分たちで考え合って、より遊びが楽しくなるようにとあそびを進めている様子をたくさん見かけ、アイデア、すすめ方におどろきました。自然物をたくさん取り入れてあり、飾り方や保育室の環境の整え方（仕切り方）も参考になりました。
◎どのコーナーも魅力的な遊びがあり、手の届くところに子どもたちが作ったり遊んだりできるものがあり､とても遊びやすくイメージもわきやすいなーと感じました。　主に乳児（2歳）を見ていましたが、お店屋さんも、メニューやぼうしなど本物のような見た目で、手先を使ったり、頭で考えなければならない遊びがたくさんで、クラスでも取り入れたいなーと思いました。
◎したい遊びをじっくりと遊び込める空間だなと感じました。異年齢の子どもが行き来しているところや遊びの継続性が伝わってきました。
◎リアルなものを用意されているからこそあそびのイメージが広がり、やりとりも深まっていました。子どもたちが作ったものを保育者の皆様が丁寧に受けとめておられる姿が環境面からも伝わってきました。保育者の言葉がけ、待つ姿勢、受けとめる姿勢、とても勉強になりました。
◎部屋のあちこちに子どもの作品が飾ってあり、その作品を見た子ども達がまた、「作りたい」

と思えるようなあたたかい環境でした。また「これどうしたのか教えてあげて」と保育者が子どもに言っておられ、大人が過程を説明するのでなく、子どもが自分の言葉で説明してくれたので、言葉力もついてきているのだとびっくりしました。

【考　察】

D園のテーマ、視点は、主に「安心できる保育者のもとで好きな遊びを選び楽しんだり、年齢なりに自分の思いを行動、表情、言葉などで表現しようとしたりしている」「興味・関心を起点に遊びを広げ、考え工夫する中で様々な発見をしたり、友だちや保育士に伝え合ったりしている」子どもの姿とそのための保育者の意図的な環境と関わりを見とることであった。結果、アンケートの回答は「環境」に関する記述が半数を占めており、子どもの姿や保育者の関わりはそれぞれ約２割となっている。

【効果と課題】

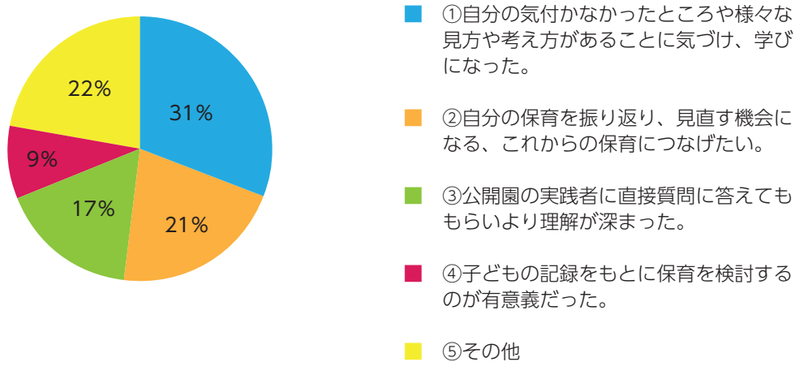
公開保育の研究テーマ、視点について参加者アンケートの回答から言えることは、保育は①子どもの姿②環境③保育者の関わりが相互に作用して起こるものであり、保育を見とる際には重要な見方であると言える。よって、園が示したテーマや・視点とは多少ずれはあるが、３つの見方で保育を見とる力はついてきているのではないか。園によっては、３つの内のどれかに偏る傾向も見られたが、それは園の特徴と言えるかもしれないし、その部分に関して何度も話し合い、改善した結果とも言えるかもしれない。

一方で公開園の研究テーマや視点を決める際にも、より具体的によりわかりやすく示していくよう、公開保育をコーディネートしていく上でも考慮していかねばならない。参加者が研究テーマや視点に基づいて保育を見とる試みは始まったばかりでもあり、今回の結果を受けて、参加者も実践者もどちらにとっても学びの多いものになるよう工夫していきたい。

■グループワーク～保育を語る　公開園の保育者が参加　～

※グループワークの中に公開園の実践者も参加していただいた２園の参加者アンケートの回答をおおまかな傾向としてまとめる。

公開保育～グループワーク（公開園の保育者も参加）～



【考　察】

グラフ○にあるように、「①自分の気付かなかったところや様々な見方や考え方があることに気づけ、学びになった」「②自分の保育を振り返り、見直す機会になる、これからの保育につなげたい」が半数を占めており、保育を語ることで質向上につながっていると言える。また、公開保育という共有した場面を見て保育を語るので、「同じ場面を共有しているからこそ、私自身の学びがとても深まりました。」「それぞれの見方があり、自分には気がつかなかったこともあり、それを共感したり同じ場面でもいろいろな考えがあることに気づき、考えさせられる場面でした。」「他の人の意見を聞けたことで、様々な視点から保育をふり返ることができてよかった。共有できることはとてもいいことだと感じた。」「他の園の先生方のお話を聞かせて頂いて、どうすれば子ども主体の保育に出来るのか、環境設定はどうすればいいのか、これからどうすればいいのかなど、これからの保育に活かせることが沢山あり、お話を聞けて良かったです。」といった回答があった。

また、公開園の実践者がグループワークに入ることに関しては、「公開保育を実践された先生が、話し合いの中に参加してくださって、質問にこたえてくださったりしたのがとても良かったです。(園の方針や先生方の思いがよく伝わった)」「直接、公開園の先生にも質問できて、大変勉強になりました。」「公開園の先生方の思いや願いを知り、さらにしっかりとした意図を持って保育されているのがわかりました。　職員間の連携のすばらしさも話し合いの工夫などによるものだとわかりました。」といった回答があり、一緒に保育を検討する効果があったと言えるのではないか。

【効果と課題】

今回、公開保育にグループワークを取り入れ、公私・園種を越えて保育の語り合いを試みた。公開保育という共通の場面を経験した保育者同士が協議することで､実践者も自らの保育を振り返り、また、参加者も今までの自らの保育を振り返り、共に見直すことにつながっている。乳幼児教育の質を向上させるためには、このグループワークの質を上げていくことが必須である。まだまだ意見交換には遠慮がちな部分もあり、率直な意見交換ができるよう、また、どんな視点で保育を検討するか等、グループワークの方法の研究は継続して進めていく必要がある。

（２）保幼小連携

①対象：保育所・幼稚園（主として５歳児担任)、小学校（主として１年生担任)、中学校

②実施方法

■連携協力園・校の指定

昨年より引き続き、小学校区ごとに協力園・校を教育委員会から指定し、生活科を中心とした連携活動を実施する。

■保幼小連携研修　：３回連続講座

第１回　　講義・グループワーク「連携活動指導案作成」
　　※小学校教育研究会生活科部共催
第２回　　モデル園・校による「公開授業・保育・カンファレンス」
第３回　　講義・グループワーク　「実践交流会」
　　～協力園・校での連携活動の実践の記録をもとに交流～

対象を５歳児担任、１年生担任にしぼり、「計画・実践（公開)・評価」の３回連続研修とする。

③効果～アンケート結果より～

第３回　講義・グループワーク　「実践交流会」
実施日：平成 30 年１月 30 日（火）

乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

内　容：グループワーク～実践交流～
◎記録シートをもとに連携活動の取組の概要と活動の中に見られた学びや育ちについて交流。
◎協力園・校２～３組のグループを形成。
講　義「遊びと学びの可視化について」
参　加：43 名（私立保育園 12、私立幼稚園９、公立保育所３、公立幼稚園２、小学校 17）
アンケート回答：37 名（回答率 86％）

※アンケートについては、最終回に実施した保育所・幼稚園、小学校の保育者・教員の回答より抜粋して検証する。

連携活動の充実

＜保育所・幼稚園＞
◎子どもたちにとっては準備から楽しい活動になるので、そこを保育者が気付いていきたいと思った。きっちり枠を作るのではなくある程度自由にすることで、自主性・協調性が自然と生まれてくるのがいいなぁと思った。
◎年間計画以外の交流会もやっておられることが分かり、もっと積極的に交流を持ててもよかったのではないかと感じました。
＜小学校＞
◎子ども同士をつなぐための手立てとして、環境設定、活動中のつながり、お手紙など効果的な方法を考えていきたい。
◎子どもたちが共に学ぶ、遊ぶ環境が必要であり、その「共に」という部分を大事にしていきたいと思いました。
◎どちらかがお客さんになるのではなく、一緒に活動をすることの大切さを改めて感じた。
◎交流と振り返りを積み重ねることで気づきの質が上がったというお話を聞いて、活動後の振り返りをきちんとしていきたいと思った。
◎子どもたちが活動の中心になれればよいが、つい口出ししてしまうことが多いので、失敗も経験させつつ、自分たちで作り出していけるよう、待つことはとても大切だと改めて感じた。
◎年間計画にないことでも、子どもたちの学びの様子からどんどん入れていけばよいと知った。いろいろな活動にチャレンジしていきたい。

保育者・教員の連携

＜保育所・幼稚園＞
◎子どもは子ども同士で学び合い、会話をする。その中での教師の役割、声かけや環境の大事さをグループワークの中で学びました。
＜小学校＞
◎お互いに遊ぶことから生まれる育ちを大切にするとともに、子どもの知恵を信じて見守ることを大切に考えて、保育者・教員の関わり方を見直していかなければならないと思った。
◎事前の打ち合わせで何のためにするのか目的意識をしっかりと明確にしておくことが大切。毎年しているからでは意味がない。
◎幼児にとっても小学生にとっても学びのある連携活動にするために、指導者同士が知り合うことと、一緒に活動内容を考えていくことの大切さを感じた。
◎継続して活動をしていくこと、小学校と幼稚園の指導者同士が打ち合わせ等をしっかりすることが大切だと学びました。
◎年度ごとに担任団が変わっていってしまうので、引き継ぎをしっかりしていきたいと思いました。

変化

＜保育所・幼稚園＞
◎小学校の先生方から「もっと保育のことを知らないといけない」と言われた時にお互いにお互いのやり方を知ろうとしている、よい所をとって組み合わせようと意識が変わってきていることは嬉しく思った。
◎保小の連携の質が年々上がってきていると思うので、今後も引き続き途切れさせることなく続けていきたいなと感じました。年間計画にない活動もどんどん行っていこうと思います。お弁当を持ってお昼の時間にお邪魔するなどやってみたいです。
◎連携だけではなく、連携したことをどう保育で活かしていくか考えようと思いました。
＜小学校＞
◎先生方が 11 月の公開授業で明らかになった成果や課題を実践に活かして下さっていることが分かって、嬉しく思いました。
◎管理職を交えて年度の計画を練っていた。学校全体で保幼小の連携をすることで、スケジュールの調整や場所・交通手段など担当の先生同士では大きな障害となることをスムーズにクリアすることができるということが参考になった。
◎交流した小学校以外の小学校に進学する子はどんな気持ちなのか知りたいが、経験したことはどこに進学しても活かされるのだと思った。
◎直接顔を合わせなくても手紙などでのやりとりをしたり、やりたい子は活動を深めるなど、交流がつながりを持ってできてきていると感じた。
◎幼児教育を踏まえた授業改善（具体的に・・・国語、算数において実物に触れ、やってみる・あそんでみる時間の確保し、次の気付きや課題へとつなげ、スパイラルを作る）

【考　察】
アンケートの多くが、「それぞれの地域の特徴や環境をいかした連携活動やいろいろな方法を知ることができ、参考になった」という内容であった。その中でも「お客さんではなく、いっしょに遊ぶ､学ぶ」（互恵性）「イベント的ではなく年間を通じて」「計画外の連携活動」（継続性）「保育者･教員が一緒に考える」（相互理解）などの連携活動のキーワードとなる回答があった。各園・校で連携活動を実施するだけではなく、その内容についても言及される段階に来ていると言える。保幼小連携講師の木下光二教授（鳴門教育大学大学院）からも、連携活動は交流の段階から、連携活動を通じて何を学ぶかという充実の段階に来ているとも言われており、研修を積み上げてきた効果も出てきている。また、連携活動を充実させるためには、互いの保育・教育の充実が必須であることから、生活科、乳幼児教育の充実させることも必要である。

【効果と課題】
各協力園・校における連携活動は、それぞれの担当者に委ねられることが多く、「昨年のことは

わからない、知らない」といったことがあり、積み上げにくい現状もあった。そこで、記録をとること、記録を通じて学びを見とることを研修として取り入れた。記録をとることで保育者・教員の振り返りにもなり、次の活動計画にいかすことも可能といえる。

アンケートの中には「年度ごとに担任団が変わっていってしまうので、引き継ぎをしっかりしていきたいと思いました。」といった回答もあり、各協力園・校で定着してきた連携活動の経験が積み上がり、充実していくよう継続して取り組むことが必要である。

（3）可視化の記録（ドキュメンテーション）

①対象：保育所・幼稚園

②実施方法

■グループワーク

事例やドキュメンテーションの中の保育について、ドキュメンテーション（保育）を見とる視点となるワークシートをもとに、グループで協議する。

■講義

講義の中で、実際に大学の研究者による事例やドキュメンテーションの見とりを聞く。

③実施の工夫点

■対象や内容を経験年数に応じて実施

・新任またはドキュメンテーションを初めて書く保育者を対象にし、事例をもとにドキュメンテーションをグループごとに作成する。（フレッシュ向け）

・保育リーダー（特に役職、経験年数等の条件はつけず、園の判断に任せる）を対象とし、ワークシートを使ってドキュメンテーションを検討するグループワークを体験しながら、園内研修として活用する内容を学ぶ。（保育リーダー向け）

■「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を活用

平成 30 年度より施行される新・保育所保育指針、幼稚園教育要領のポイントでもある「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」(以下「10 の姿」) について理解を深めるとともに、遊びの中の育ちや学びを「10 の姿」で示し、保護者や小学校教員へ発信し、共有していくために研修に取り入れた。また、「10 の姿」は到達度目標ではなく、5 領域を基本とした保育、遊びや環境を通じた保育を実践する中で見えてくる姿であり、その育ちと学びの姿を説明するための共通言語として活用し、今後も保育を可視化し、伝えていく。

・グループワークの中で、ドキュメンテーション（保育）の中にある育ちや学びを「10の姿」で見とる。

※０～２歳児については、新・保育所保育指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」「１歳以上３歳未満の保育に関わるねらい及び内容」を活用する。

■グループの構成

・なるべく発言しやすいように4~5人の小グループにする。

・ドキュメンテーションを書いた保育者がグループワークに入り、参加者と一緒に検討する。

・現在担任している年齢ごとにグループを構成する。

④効果～アンケート結果より～

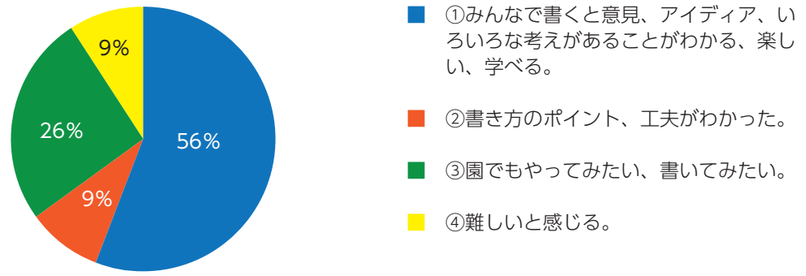
※結果については、アンケートが自由記述によるものであり、その回答をおおまかな傾向としてまとめたものである。よって、１人が複数の回答をしている場合もあり、回答人数よりも回答数は多くなっている。

※特に「③実施の工夫点」に関するアンケート結果を考察し、評価とする。

■フレッシュ向け～対象や内容を経験年数に応じて～

実施日：平成 29 年 6 月 23 日（金）
内　容：講義「ドキュメンテーションとは」
　　グループワーク「事例をもとにドキュメンテーションを作成しよう」
　　◎事例を読み、自分なりワークシート（ドキュメンテーションを書く時の視点）をもとに分ける
　　◎ 4 ～ 5 人のグループでドキュメンテーションを作成する
　　◎他のグループのドキュメンテーションを見る
　　◎指導・助言
参　加：32 名（私立保育園１７、私立幼稚園５、公立保育所９、公立幼稚園１）
アンケート回答：31 名（回答率 97%）

ドキュメンテーション研修（フレッシュ向け）グループワーク
～書いてみてどうだったか～

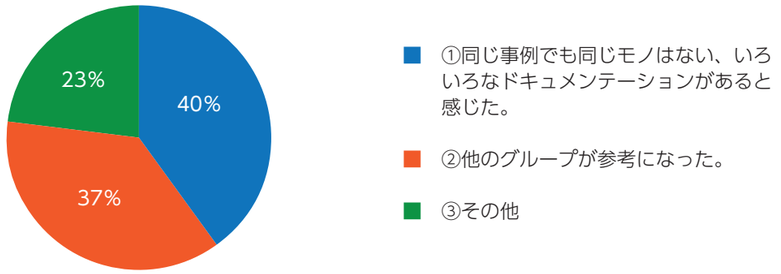


【考　察】

グループで実際にドキュメンテーションを作成してみると、「①みんなで書くと意見、アイディア、いろいろな考えがあることがわかる、楽しい、学べる」といった意見が半数を占め、グループワークを通じていろいろな保育の見方、考え方、アイディア等に出会うことができ、経験年数の浅い保育者にとって保育の引き出し（方法）を増やすことにつながっている。

また、「④難しいと感じる」という意見の中には、「難しい、楽しい、両方を感じました」「慣れていないため、とても難しく感じたが、何回も書いていく中で、少しずつ書けるのかなとも思った」という意見もあり、難しさも感じるが、経験を積むことでその難しさは変化してくるとも言える。経験年数が浅い保育者を対象とした場合、「学び、育ちがどこにあるのかが難しかったです。」「きっかけは何か、子どもの姿は、保護者の意図は、など多くのことを整理して書くのが難しかったです。」「どのように表現をすれば伝わりやすいのか、また、伝えたい事を自らの中で整理するのが難しいと感じました。」といった回答もあり、自分の保育を記録し、振り返ることそのものの経験が少ないのではないかと考える。その経験も研修等で積み重ねていく必要があると言える。

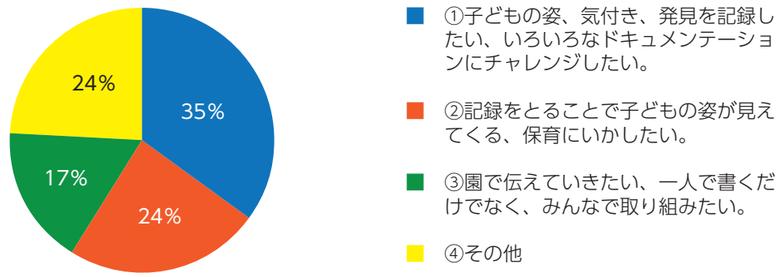
ドキュメンテーション研修（フレッシュ向け）グループワーク
～他グループのドキュメンテーションを見て～



【考　察】

他のグループのドキュメンテーションを見て、「①同じ事例でも同じモノはない、いろいろなドキュメンテーションがあると感じた」「②他のドキュメンテーションが参考になった」といった回答が多くを占めている。「自分たちとは違うまとめ方や、違う気付き、意図を知ることができたし、新しい考え方ができた。」「同じテーマ内容でもこんなにも書き方が違うのだと思い、またその表現や配置は勉強になりました。」「見やすかったですし、育ち、学びがしっかり書いてあり、同じ事例でも見る人によって感じ方が違うんだなと改めて気付きました。」といった自分とは違う観点や表現等にふれることで、今までとは違った視点で保育をとらえることにもつながっていると言える。

ドキュメンテーション研修（フレッシュ向け）グループワーク
～今後どのようにいかしていきたいか～



【考　察】

グループワークが様々な視点に触れる機会となり、「すごく楽しかったです。“どうする？こうしてみる？”と沢山意見も出たし、一緒に作り上げていく楽しさを味わいました。一人で書くのとはまた少し違いますね。」といった回答や、「今日、様々なドキュメンテーションを見せてもらったので、書き方も様々な書き方に挑戦してみようと思います。」「ドキュメンテーションも書いていきたいですが、保育の中でも取り入れていき子ども主体の保育をしたいです。」といったドキュメンテーションだけでなく、保育にもチャレンジしていきたいという前向きな回答もあった。また、ドキュメンテーションを書く際に一人で書くのではなく、数名の保育者と意見交換しながら書くことで視野も広がり、次への保育や遊びへとつながっていくとも考えられ、園でやってみたいといった意見もあった。

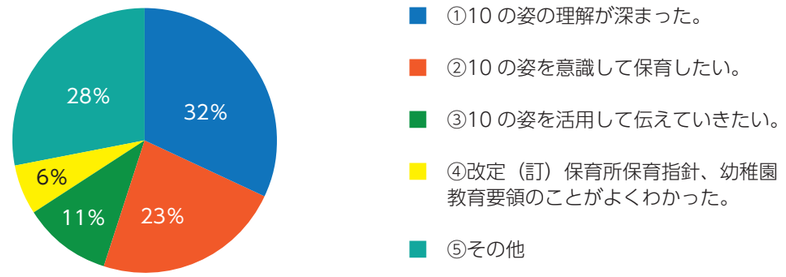
【効果と課題】

フレッシュな保育者の経験が少ないことからくる不安や迷い等を、研修を通じて保育の引き出し（経験知）を増やすことで解消し、園は違っても同じ保育者同士の同僚性を高めていく機会になっている。現在は、年１回であるが、複数回実施することができれば更に効果があると考える。

■保育リーダー向け～対象や内容を経験年数に応じて～

実施日：平成 29 年７月２４日（月）
内　容：
1　グループワーク「ワークシートの視点をもとに事例をみとる」
　　◎グループワークの目的・方法について説明
　　◎事例を読み、自分なりにワークシート（ドキュメンテーションを書く時の視点）をもとに見とる
　　◎４～５人のグループで事例を検討する
2　講義「ドキュメンテーションの中の保育を幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿でとらえる」
3　グループワーク「事例の中の育ちと学びを１０の姿でみとる」
　　◎事例を読み、自分なりにワークシート（ドキュメンテーションを書く時の視点）をもとに見とる
　　◎４～５人のグループで事例を検討する
4　指導・助言
参　加：５３名（私立保育園 21、私立幼稚園 21、公立保育所９、公立幼稚園２）
アンケート回答：46 名（回答率 87%）

ドキュメンテーション研修（保育リーダー向け）グループワーク
～講義について～



【考　察】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」については、「① 10 の姿の理解が深まった、② 10 の姿を意識して保育したい、③ 10 の姿を活用して伝えていきたい」が計 66% と概ね理解が進んだと言える。「10 の姿が到達目標でなく、もっと広く構えて保育していいんだと思えた。より理解を深められた。」「10 の姿と聞いて、講義を受けるまではものすごく難しく固い考えを持っていましたが、小学校へあがるにあたって、先生たちや保護者の方へわかりやすく伝える手段だという風に聞き、とても納得することができました。」など講義を受ける前には、どうとらえてよいかわからなかったといった回答も複数あり、正しく理解をしていくためにも継続する必要がある。

乳幼児教育の推進体制に関する調査研究報告

ドキュメンテーション研修（保育リーダー向け）グループワーク
～今後どのように保育いかしていきたいか～

【考　察】

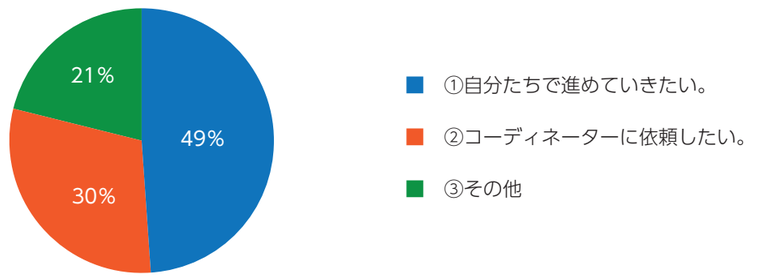
「10 の姿」を活用したドキュメンテーションについては、「③ 10 の姿を活用してドキュメンテーションを書きたい」にあるように、少数ではあるが「子どもの育ちや学びを保護者や小学校の先生などに伝えていく際、10 の姿を説明言語として活用しながら、より分かりやすく、伝わりやすくしていければと思います。」といった回答があった。これから、保護者や小学校教員へ発信し、共有していくためにも「10 の姿」を取り入れた研修を小学校教員とも一緒にしていく必要がある。

ドキュメンテーション研修（保育リーダー向け）グループワーク
～グループワークを園内研修に取り入れたいか～

【考　察】

また、グループワークに関しては、「②グループワークの良さ（保育をいろいろな視点で検討する）を実感した、取り入れたい」にあるように、「いろいろな先生の考えが聞けて、いろいろな考えがあることをあらためて知りました。１つの事に対して複数の人と話し、可視化していくようにしていきたいし、グループワークを取り入れたい。」「園でも保育を振り返って、グループワークで勉強会をしたいと思いました。」など、グループワークの楽しさや面白さを実感し、園内研修として実施したいという回答があった。

ドキュメンテーション研修（保育リーダー向け）グループワーク
～園内研修をどのような形で進めたいか～



【考　察】

多くの園でグループワークを「①園内研修に取りれたい」と回答しているが、取り入れたくても難しいと回答している園も約 30% あった。「園の園内研修は若い先生、なかなか意見を出さない、この位の少人数で意見を吸い上げてみたい。」「小グループで行うのは声も聞けよいですね。」「自分の意見を言うのは、緊張したり不安だったりしますが、よく聞く、否定しないということを守ると言いやすかったので、いかしたいと思いました。」といったグループワークの方法等についての回答もあり、グループワークを園内研修として取り入れるには、保育リーダー自身の園内研修に対するマネジメント力やファシリテーション力が必要と感じる。

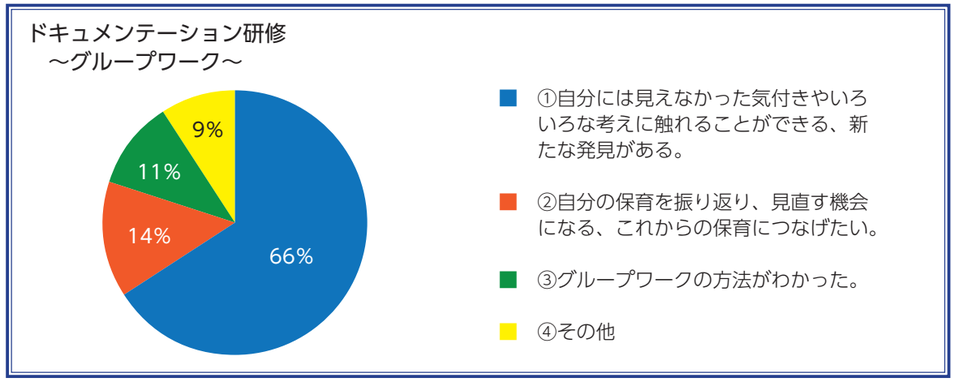
【効果と課題】

園内研修を実施する際に「乳幼児教育コーディネーターに依頼したい」との回答も 30% あることからも、園内研修の充実が急務である。こうした保育リーダー向けの研修方法に関する研修の実施や乳幼児教育コーディネーターが園訪問等でサポートしていくことが必要だと考える。

また、なかなか集まることが難しいといった園の多忙さや人材不足等、根本的な園運営の面で難しさがあることも、質を向上させていく上では考慮しなければならない。

■自分で書いたドキュメンテーションを検討する

実施日：平成 29 年 10 月１１日（水）、11 月８日（水）
内　容：
　1　グループワーク「ワークシートの視点をもとにドキュメンテーションを見とる」
　　◎ドキュメンテーションを読み、自分なりにワークシート（ドキュメンテーションを書く時の視点）をもとに見とる
　　◎４～５人のグループで事例を検討する
　2　グループワーク報告
　3　講義　指導・助言
参　加：32 名（私立保育園 11、私立幼稚園４、公立保育所 14、公立幼稚園３）
アンケート回答：32 名（回答率 100%）



【考　察】

ドキュメンテーションを書いた保育者を含めてのドキュメンテーションの検討に取り組んだ結果、「①自分には見えなかった気付きやいろいろな考えに触れることができる、新たな発見がある」「②自分の保育を振り返り、見直す機会になる、これからの保育につなげたい」が 80% となった。この中にはドキュメンテーションを書いた保育者の回答も含まれており、「自分が書いた物を取り上げていただき、違った視点で振り返る事ができたし“こんな考えもあるんだ”と勉強になりました。自分だけでは気づけなかった意見もたくさん出していただきありがたかったです。」「自分で書いたドキュメンテーションをグループワークすることで、様々な考え方や展開など、新たな気付きや発見ができた､自分にプラスになった。」「ドキュメンテーションを持参させていただきましたが、自分が感じたり考えたりしていたことを、他の先生にも同じように言っていただくことや、違う意見を言っていただく中で、自分の保育やドキュメンテーションの書き方を見直すきっかけになりました。」といった「様々な考えに触れる、新たな発見、保育を見直す」といった乳幼児教育の質を向上させる視点が多く含まれていることがわかる。

【効果と課題】

ドキュメンテーションではあるが、自分の保育を検討する機会となり、参加者にとっても保育の引き出し（経験知）を増やすことにもなると考えられる。園内において日常的にこのような機会が持てると、更に、乳幼児教育の質の向上が個人だけでなく、園全体のものになることが期待される。保育者の育成と乳幼児ｋ表行くコーディネーターのサポートにより園内研修の充実を図っていきたい。

（4）保幼小接続カリキュラム研究　保幼小中連携

第３章　本市の目指す乳幼児教育ビジョンの基本方針
２　保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実
（２）乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実
～中略～小学校は、生活科の事業の計画の中で、保育所・幼稚園は年間計画の中で連携活動を位置付けカリキュラム化し、１年間を通じて連携活動が展開できるように取り組みます。
「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」より

①対象：保育所・幼稚園、小学校、中学校

②実施方法

■保幼小接続カリキュラム策定会議の開催
■保幼小中連携研修

③実施の工夫、変更

■０～ 15 歳までの保幼小中接続カリキュラムの研究

当初は、保育所・幼稚園の５歳児から小学校１年生の接続期を対象とした保幼小接続カリキュラムの研究としていたが、議論をすすめていく中で、接続期だけのカリキュラムでは不十分であり、本市の教育振興大綱の基本理念でもある「０～ 15 歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現するべく、15 歳までを見通したカリキュラム「まいづる０１５」（仮称）とすることとなった。そのため、会議には新たに中学校長、教員代表１名ずつを招集し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」をベースにしながら「乳幼児教育ビジョン」「小中一貫教育」を意識した０～ 15 歳までの事例を収集し検討した。（平成 30 年度策定予定）

来年度、各園・校における保幼小連携活動を更に充実させるため、実際に活用できる接続期の年間計画等も検討する。

■保幼小中連携研修

・講義：新学習指導要領にも明記される「３つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について園・校種を越えて互いに理解を深める。

P56 ～ 57、乳幼児教育ビジョン推進事業報告会に詳細は掲載。

（5）全体会、報告会・乳幼児教育フォーラム

P40 ～ 60、詳細は掲載。

（6）　聞き取り調査

①対象：小学校４　私立幼稚園２　私立保育所１の園・校長または教頭、主任、５歳児・１年生の担任
※平成 28 年度　公開保育・授業を実施した園・校や就学先を対象に抜粋

②実施方法

公開保育等で保育が変化したことにより、子どもや保護者にどんな変化が見られたか、今までの５歳児や１年生との違いはあるのか、また、保幼小の連携活動を経験してきた子どもや教員にどんな変化が見られたか等を園・校へ訪問し、聞き取り調査を実施した。

③結果と考察

■保育者より

「子どもが自分で考えて行動するようになった」「作品も自分で選んで考えて作るので発想が豊か」「材料の使い方や道具の使い方も考えている」と子どもの変化を感じている。また、園では発表会を子どもを主体とした内容に変え取り組む中で、保育者はやりたいこと、得意なことをいかした劇をと考え、自分で役割を選び、セリフや音響、道具、衣装、幕引きまでほとんどを子ども達自身で行うことができた。初めは保護者の反応も不安だったが、事前におたよりや帳面でプロセスを伝えていたことあり、「ふだんの遊びが発表会として見られた」といった感想も聞かれた。また、園で

の遊びを子ども達がよく伝えていることもわかった。

「保育者が変わることで、子どもが変わる、持っている力を出せる」と実感しているとの意見が聞かれた。「保育者が、子どもの思いに気づいてあげたいと思うことで言葉がけも増え、子どもの言葉、子ども同士の会話も増えた。子ども達は、保育者の問いかけに答えようとするので一生懸命考えるようになり、図鑑で調べ、友だち同士教え合う姿も見られるようになった。友だちと協力して納得するまで調べ、そんな友だちの姿を見て、図鑑に興味を持ち始めた子どももいる。」といった変化が聞かれた。懇談会など子ども達の様子を伝えると、「子どもの言っていることがわかった」との声が聞かれ、子ども達が園での様子を話したり、自分達で調べたことを保護者にも伝えたりしていることが伺えた。

■教員より

公開保育や連携活動を経験してきた子ども達の状況を聞くと「どの子どもも連携活動を通し、学校というものを経験してくるので、昔に比べて不安感がないように感じる」「学校を嫌がる子がいない」といった声をどの学校でも聞くことができた。市全体で取り組んでいる成果と言える。
また、連携活動の内容は、どの学校でも変化が感じられた。担任が考えていた計画ではなく、「子ども達から○○したいとの声があがり、自分たちで話し合って計画を立てた。内容は同じでも、１組と２組とやり方が違い、それぞれ子ども達が主体的に取り組む姿が見られた。」「失敗させないようにと、つい事前に練習をさせてしまうが、練習はいらないのかもしれないと反省している。失敗して困った時にどうするかも大事と気付いた。」といった教員の声も聞かれた。

１年生と５歳児の様子は「昨年よりも距離が近くなっている」「昨年のことを覚えていて、自分達がしてもらったことを５歳児にしている」など、連携活動の経験がいかされていることもわかった。また、当初の計画以外にも子ども発信からはじまった連携活動や生活科以外にも給食の試食や食育といった連携もされている様子も伺え、保幼小連携の効果は感じられた。

④効果と課題

公開保育後の変化は、保育所・幼稚園の保育者や子どもにはあったと言えるが、小学校の教員からは把握することが難しかった。それは、本市の傾向として（過疎地域以外）、１校に複数園から入学してくる傾向があり、乳幼児教育の変化が即座に見えにくいことも考えられる。また、聞き取り調査の対象とした教員は、１年生の担任ということもあり連携活動は経験していても、乳幼児教育の経験はなく、どうしても連携活動の内容に終始してしまう傾向にあった。つまり、５歳児と連携活動をしている教員でさえ、まだまだ乳幼児教育を十分に理解できているとは言えない。今後は、乳幼児教育について理解を深めるための研修や発信が必要である。また、残念なことに、子どもの育ちと学びの記録が残されていない園もあり、園と子ども、保護者をつなぐツールとしてもドキュメンテーションの更なる普及も必要である。

今回の聞き取り、「自然物で遊んだ経験のある子と全くない子の差が大きい」など、保育所・幼稚園で経験してくる内容に差があることもわかった。このような経験の差が少なくなるように更に乳幼児教育ビジョンにもとづいて質の高い乳幼児教育を推進していく必要がある。

しかし、連携活動については、小学校の担当者が変わったとしても、５歳で経験している子どもたち自身が自ら連携活動を進歩させているように感じた。やりたいことを自ら発信する１年生に教員がどこまで寄り添い、任せられるかが問われている。まさに、子どもの主体性を育む乳幼児教育に通じる連携活動に変化してきていると言える。

３　検討課題　　来年度に向けて

（１）乳幼児教育センター、コーディネーター

平成 31 年度乳幼児教育センター開設に向けて、機能・役割について明確にし、事業内容、体制等についても方向性を示してく。乳幼児教育センターは､「乳幼児教育ビジョン」に基づき､『乳幼児教育』『発達支援』の分野において「サポート」「コーディネート」し、「情報発信」「研究」「研修」「連携」「園訪問」を柱に事業を実施し、更に研究を進める。

また、乳幼児教育コーディネーターへの園内研修のサポートや保育へのアドバイスに対する需要はあるが、コーディネーターが兼務であることから、実際には機動できていないことも課題となっており、園への「サポート」、研修の「コーディネート」という役割を担えるようにしたい。

（２）乳幼児教育ビジョンの周知

「乳幼児教育ビジョンという言葉を耳にするようになった」といった乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議のメンバーの言葉にもあるように少しずつ浸透はしてきているが、市民への周知は十分とは言えない。また、内容については保育者、教員にも十分に浸透しているとは言えず、引き続き研修やニュースレター等を通じて発信をしていくことが重要である。30 年度は、ビジョンの見直しの年度でもあるので、これを機会にさらに周知を図っていく必要がある。

（３）乳幼児教育の質の向上研修

①研修方法の工夫

公開保育参加者には､公開園が事前に示した「公開保育の研究テーマ（園の特徴､目指している保育)」「公開保育の視点（何を見てほしいのか、何を学びたいのか)」に基づいて保育を見とり、グループの中で検討してほしいと考えたが、必ずしも、そのテーマや視点で検討されたとは言えず、公開保育に参加する側の視点、実践する側の公開保育をする視点については、今後もより効果的な方法の検討が必要である。

②「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を活用したドキュメンテーション研修

「10 の姿は到達目標でないとわかった」「難しく、固く考えていた」「小学校の教員や保護者にわかりやすく伝えるために活用したい」といった参加者アンケートの回答からも、今後、小学校教員や保護者へ発信し、乳幼児教育への理解を深め、共有していくためにも「10 の姿」を取り入れた研修を継続し、小学校教員にも周知し、共通言語にしていく必要がある。

③研修の体系化

対象や内容を経験年数に応じた研修へと体系化していくためには、人材（保育者）育成の指標や育成プログラムが必要と感じており、関係機関と調整しながら実現に向けて進めていきたい。また、保育リーダー向けの園内研修等のマネジメント研修の必要性も感じており、保育士等キャリアアップ研修やその他法定研修等様々な研修を体系化し､実施することが乳幼児教育センターの役割ではないかと考える。

これまで公開保育等で蓄積してきた指導案や各園のドキュメンテーションをまとめ、発信することも必要ではないかと考えており、乳幼児教育センターにおいて取りまとめ、保育者・教員が自由に閲覧したり、日々の保育実践や研修に活用したりできるようにすることも検討していきたい。

平成29年度事業一覧

日時／参加者数	内　　容	場　所
平成29年5月21日(日) 12:30～14:30	**事業発表「日本保育学会　第70回大会」** [ポスター発表] 研究テーマ：「乳幼児教育の質の向上をめざした地域一体型事業の試み」 発表者：北野　幸子准教授(神戸大学大学院) 飯田　美和(幼稚園・保育所課) 内容：「乳幼児教育ビジョン」策定に関する取り組みの概要、成果等につ いて」	川崎医療福祉大学
平成29年5月25日(木) 15:00～17:00 61人	**[保幼小中連携研修会]** 講演「乳幼児教育と学校教育をつなぐには～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から～」 講師：兵庫教育大学大学院　溝邊　和成　教授 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、昭光保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポウス、なかすじ保育園、東山保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、倉梯幼稚園、シオン幼稚園、橘幼稚園、舞鶴聖母幼稚園、三鶴幼稚園、朝来小学校、余内小学校、池内小学校、大浦小学校、岡田小学校、倉梯小学校、倉梯第二小学校、志楽小学校、新舞鶴小学校、高野小学校、中筋小学校、中舞鶴小学校、福井小学校、三笠小学校、由良川小学校、与保呂小学校、青葉中学校、加佐中学校、白糸中学校、城南中学校、若浦中学校※50音順	商工観光センター4F展示交流室
平成29年5月25日(木) 17:30～19:00	**舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議** 会長：兵庫教育大学大学院　溝邊　和成　教授 1. 事業説明(事務局) 2. 意見交換 参加：保幼小カリキュラム策定会議委員 私立保育園長、私立幼稚園長、公立保育所長、公立幼稚園長、小学校長 中学校長、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭	商工観光センター4F展示交流室
平成29年6月23日(金) 15:00～17:00 22人	**[子どもを主体とした保育研修] ドキュメンテーション研修(フレッシュ向け)** 指導：神戸大学大学院　北野　幸子　准教授 1. グループワーク：「園における幼児の写真と記録をもとにドキュメンテーションを書いてみよう」 2. 講義：「ドキュメンテーションについて」 参加：永福保育園、岡田保育園、平保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所 、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、舞鶴聖母幼稚園、三鶴幼稚園、舞鶴幼稚園　※50音順	西総合会館4F第1会議室
平成29年6月24日(土) 10:30～12:00	**舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議** 会長：神戸大学大学院　北野　幸子　准教授 副会長：兵庫教育大学大学院　溝邊　和成　教授 1. 事業説明 2. 意見交換 参加：乳幼児教育の推進体制構築事業検討会委員 学識経験者、民間保育園連盟、私立幼稚園協会、公立保育所、 公立幼稚園、小学校長会、中学校長会、まいづる子育てサークル連絡会、 公募市民	商工観光センター4F大会議室
平成29年6月24日(土) 13:30～16:00 163人	**「乳幼児教育ビジョン講演会」** 講演：「環境を通して主体性を育む」 国立教育政策研究所　掘越　紀香　総括研究官 対談：「これからの乳幼児教育～未来を担う子ども達へ今、大切にすべきこと～」 国立教育政策研究所　掘越　紀香　総括研究官 神戸大学大学院　　北野　幸子　准教授 参加：市内保育所・幼稚園・小学校・中学校関係者、保護者、関係機関	商工観光センター5Fコンベンションホール

日時／参加者数	内　　容	場　所
平成29年7月13日(木) 15:00～17:00	**舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議** 会長：兵庫教育大学大学院　溝邊　和成　教授 参加：保幼小カリキュラム策定会議委員 私立保育園長、私立幼稚園長、公立保育所長、公立幼稚園長、 小学校長、中学校長、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭	西総合会館4F第1会議室
平成29年7月24日(月) 14:30～17:00 53人	**[子どもを主体とした保育研修] ドキュメンテーション研修** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. 講義 「ドキュメンテーションの中の保育を幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿でとらえる」 2. グループワーク 「記録から保育(遊び)の中の学び・育ちをみとる」 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、相愛保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、八雲保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝日幼稚園、朝来幼稚園、池内幼稚園、シオン幼稚園、橘幼稚園、 中舞鶴幼稚園、 三鶴幼稚園、 舞鶴聖母幼稚園、舞鶴幼稚園　※50音順	西総合会館3F会議室
平成29年8月8日(火)	**事業視察対応**(越前市)　10人	
平成29年8月18日(金) 9:00～12:00 58人	**[保幼小連携活動研修]** 指導：鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 1. グループワーク「連携協力園・校ごとの連携活動の指導案づくり」 2. 講義「連携におけるカリキュラムマネジメント～計画(指導案)及び評価(記録・省察)の重要性～」 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウス保育園、なかすじ保育園、東山保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、倉梯幼稚園、中舞鶴幼稚園、舞鶴聖母幼稚園、三鶴幼稚園、舞鶴幼稚園、朝来小学校、余内小学校、池内小学校、大浦小学校、岡田小学校、倉梯小学校、倉梯第二小学校、志楽小学校、新舞鶴小学校、高野小学校、中筋小学校、中舞鶴小学校、福井小学校、三笠小学校、明倫小学校、由良川小学校、吉原小学校、与保呂小学校　※50音順	舞鶴市政記念館ホール
平成29年8月18日(金)	**事業視察対応**(大阪教育大学)　1人	
平成29年9月12日(火) 9:00～14:30 42人	**[子どもを主体とした保育研修]** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. 公開保育 2. グループワーク・カンファレンス 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、昭光保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、倉梯幼稚園、中舞鶴幼稚園、三鶴幼稚園、舞鶴幼稚園 ※50音順	八雲保育園
平成29年9月21日(木)	**事業視察対応**(周南市)　3人	
平成29年10月11日(水) 14:30～15:00 17人	**[子どもを主体とした保育研修] ドキュメンテーション研修** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. グループワーク「記録から保育(遊び)の中の学び・育ちをみとる」 2. 講義「ドキュメンテーションを保育所保育指針・幼稚園教育要領で読み解く」 参加：永福保育園、さくら保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、シオン幼稚園、舞鶴幼稚園 ※50音順	中総合会館4F401会議室
平成29年10月12日(木) 9:00～14:30 19人	**[子どもを主体とした保育研修]** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、なかすじ保育園、東山保育園、八雲保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、池内幼稚園、舞鶴幼稚園、大浦小学校、 高野小学校　※50音順	永福保育園(城屋園舎)

平成29年度事業一覧

日時／参加者数	内　　容	場　所
平成29年10月26日(木) 15:00～ 17:00	**舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議** 会長：兵庫教育大学大学院　溝邊和成　教授 1. 事業説明(事務局) 2. 参加：保幼小カリキュラム策定会議委員 私立保育園長、私立幼稚園長、公立保育所長、公立幼稚園長、小学校長、中学校長、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭	舞鶴市役所別館4F大会議室
平成29年11月4日(土) 9:30～16:40 28人	**[現地研修]** 平成29年度幼児教育研究会 1. 保育公開 2. 全大会 3. 分科会 4. 講演「新しい時代の幼児教育」 文部科学省視学官　湯川　秀樹氏 参加：岡田保育所、タンポポハウス、東山保育所、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所　※50音順	鳴門教育大学附属幼稚園
平成29年11月8日(水) 14:30～17:00 15人	**[子どもを主体とした保育研修] ドキュメンテーション研修** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. グループワーク 「記録から保育(遊び)の中の学び・育ちをみとる」 2.「ドキュメンテーションを保育所保育指針・幼稚園教育要領で読み解く」 参加：永福保育園、さくら保育園、タンポポハウス、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、シオン幼稚園舞鶴幼稚園　※50音順	中総合会館4F 401会議室
平成29年11月9日(木) 9:30～14:30 27人	**[子どもを主体とした保育研修]** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. 公開保育 2. グループワーク・カンファレンス 参加：永福保育園、さくら保育園、タンポポハウス、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、倉梯幼稚園、橘幼稚園、中舞鶴幼稚園、三鶴幼稚園、舞鶴幼稚園、中舞鶴小学校　※50音順	中舞鶴幼稚園
平成29年11月13日(月) 47人	**[保幼小連携活動研修]** 指導　鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 1. 中筋小学校・池内幼稚園・なかすじ保育園連携活動　公開授業・保育 2. カンファレンス 参加：永福保育園、さくら保育園、タンポポハウス、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、シオン幼稚園舞鶴幼稚園　※50音順	中筋小学校 なかすじ保育園
平成29年11月27日(月)	**事業視察対応**(金沢大学)　5人	
平成29年11月28日(火)	**事業視察対応**(大津市立保育園長会)　18人	
平成29年11月29日(水)	**事業視察対応**(東近江市　びわこ学院大学)　6人	
平成29年12月1日(金)	**[情報発信]** FMまいづる出演	
平成29年12月7日(木) 9:15～2:15 30人	**[子どもを主体とした保育研修]** 指導：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 1. 公開保育 2. グループワーク・カンファレンス 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、相愛保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所池内幼稚園、倉梯幼稚園、シオン幼稚園、中舞鶴幼稚園、舞鶴幼稚園、大浦小学校、倉梯小学校、志楽幼稚園　※50音順	うみべのもり保育所

日　　時	内　　容	場　所
平成29年12月23日(土) 13:00～16:45 417人	**乳幼児教育フォーラム** Ⅰ部：講演会 講演「未来を担う子ども達へ　これからの乳幼児教育～保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定(訂)より～」 講師：白梅学園大学大学院　無藤　隆　特任教授 Ⅱ部：報告会 1. 乳幼児教育ビジョン推進事業　報告 2. 子どもを主体とした保育：公開保育報告 (事務局・八雲保育園・永福保育園・中舞鶴幼稚園・うみべのもり保育所) 3. 保幼小連携：公開授業・保育報告 (事務局・中筋小学校・池内幼稚園・なかすじ保育園) 4. 保幼小接続カリキュラム策定会議より報告 (事務局・兵庫教育大学大学院教授　溝邊　和成　会長　) 指導・助言：白梅学園大学大学院　無藤　隆　特任教授 神戸大学大学院　北野　幸子　准教授 参加：保育所・幼稚園・小学校・中学校・行政・大学関係者・保護者他	商工観光センター5Fコンベンションホール
平成30年1月18日(木) 15:00～17:00	**舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議** 会長：兵庫教育大学大学院　溝邊和成　教授 参加：保幼小カリキュラム策定会議委員 私立保育園長、私立幼稚園長、公立保育所長、公立幼稚園長、小学校長、中学校長、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭	舞鶴市役所別館4F大会議室
平成30年1月30日(火) 14:15～16:30 44人	**[保幼小連携活動研修]** 指導：鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 1. 実践交流 2. グループ発表 3. 講義「連携活動の実践から学ぶ」 参加：永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、昭光保育園、相愛保育園、タンポポハウス保育園、なかすじ保育園、東山保育園、八雲保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、倉梯幼稚園、志楽幼稚園、橘幼稚園、中舞鶴幼稚園、舞鶴聖母幼稚園、三鶴幼稚園、舞鶴幼稚園、朝来小学校、余内小学校、池内小学校、大浦小学校、岡田小学校、倉梯小学校、倉梯第二小学校、志楽小学校、新舞鶴小学校、高野小学校、中筋小学校、福井小学校、三笠小学校、明倫小学校、由良川小学校、与保呂小学校　※50音順	西総合会館3F会議室
平成30年2月17日(土) 9:30～16:00 35人	**[現地研修]** 日本保育学会近畿ブロック 環太平洋乳幼児教育学会日本支部2018年研究会 1. 保育公開 2. 実践の振り返りと意見交流会 3. シンポジウム	神戸大学附属幼稚園
平成30年2月22日(木) 15:30～17:00	**舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議** 会長：神戸大学大学院　北野幸子　准教授 副会長：兵庫教育大学大学院　溝邊和成　教授 1. 事業報告 2. 意見交換 参加：乳幼児教育の推進体制構築事業検討会委員 学識経験者、民間保育園連盟、私立幼稚園協会、公立保育所、公立幼稚園、小学校長会、中学校長会、まいづる子育てサークル連絡会、公募市民	舞鶴市役所別館4F413会議室

園・校訪問

平成29年度　乳幼児教育コーディネーター・乳幼児教育相談員・特別支援教育相談員　訪問一覧

実施日		訪問先	参加人数
平成29年5月11日	公開授業・保育に向けた協議	中筋小学校	5
平成29年5月15日	園訪問:ドキュメンテーション研修のグループワークの方法等について協議	岡田保育園	1
平成29年7月4日	公開保育にむけて　※保育見学、意見交換	八雲保育園	1
平成29年7月10日	公開保育にむけて・園内研修(指導案の書き方他)意見交換	八雲保育園	5
平成29年8月8日	公開保育に向けて勉強会(指導案の書き方、各園の研究テーマ、視点についての説明)		14
平成29年8月8日	公開保育にむけて打ち合わせ(研究テーマ、保育の視点等、当日の流れの確認)	八雲保育園	3
平成29年8月23日	公開保育にむけて・園内研修(指導案の書き方他)意見交換	中舞鶴幼稚園	7
平成29年8月28日	公開授業・保育に向けた協議	中筋小学校	6
平成29年8月30日	公開保育に向けて勉強会(ドキュメンテーションの書き方、検討)		12
平成29年9月7日	公開保育にむけて・園内研修(指導案確認他)・意見交換	八雲保育園	4
平成29年9月13日	公開保育にむけて・園内研修(指導案の書き方他)意見交換	永福保育園	5
平成29年9月15日	公開保育にむけて・保育見学	永福保育園(城屋園舎)	5
平成29年10月6日	公開保育にむけて打ち合わせ(研究テーマ、保育の視点等、当日の流れの確認)	永福保育園	2
平成29年10月27日	公開保育にむけて・保育見学	中舞鶴幼稚園	5
平成29年11月7日	公立主任勉強会		6
平成29年11月14日	公開保育にむけて　打ち合わせ	うみべのもり保育所	4
平成29年11月20日	公開保育にむけて・保育見学	うみべのもり保育所	5
平成29年11月22日	公開保育にむけて・公開保育指導案　指導	うみべのもり保育所	10
平成29年11月27日	公開保育振り返り	八雲保育園	3
平成29年11月28日	環境　指導	中保育所	8
平成29年12月5日	公開保育振り返り	永福保育園	3
平成29年12月5日	公開保育にむけて・公開保育指導案　指導	うみべのもり保育所	10
平成29年12月7日	公開保育振り返り	中舞鶴幼稚園	4
平成29年12月13日	公立主任勉強会		6
平成29年12月14日	乳幼児教育フォーラム報告・打ち合わせ	八雲保育園	2
平成29年12月18日	乳幼児教育フォーラム報告・打ち合わせ	八雲保育園	2
平成29年12月18日	乳幼児教育フォーラム報告・打ち合わせ	中舞鶴幼稚園	4
平成29年12月25日	公立主任勉強会		3
平成30年1月12日	公立主任勉強会	中保育所	6
平成30年1月24日	公立主任勉強会	舞鶴幼稚園	6
平成30年2月8日	公立主任勉強会	うみべのもり保育所	3
平成30年2月15日	公立主任勉強会	舞鶴幼稚園	3
平成30年2月27日	公立主任勉強会	舞鶴幼稚園	6
平成30年3月5日	聞き取り調査	与保呂小学校	2
平成30年3月7日	聞き取り調査	さくら保育園	3
平成30年3月8日	聞き取り調査	倉梯小学校	2
平成30年3月12日	聞き取り調査	朝来幼稚園	2
平成30年3月12日	聞き取り調査	朝来小学校	3
平成30年3月13日	聞き取り調査	中舞鶴幼稚園	1
平成30年3月13日	聞き取り調査	中舞鶴小学校	3
平成30年3月26日	公立主任勉強会	うみべのもり保育所	6
平成29年5月11日	園巡回(発達支援)	ルンビニ保育園	3～5
平成29年5月18日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園	3～5
平成29年5月22日	園巡回(発達支援)	朝来幼稚園	3～5
平成29年5月23日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園	3～5
平成29年5月25日	園巡回(発達支援)	朝来幼稚園	3～5
平成29年5月26日	園巡回(発達支援)	橘幼稚園	3～5
平成29年5月29日	園巡回(発達支援)	西乳児保育所	3～5
平成29年5月30日	園巡回(発達支援)	舞鶴幼稚園	3～5
平成29年6月1日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園	3～5
平成29年6月1日	園巡回(発達支援)	倉梯第二小学校	3～5
平成29年6月5日	園巡回(発達支援)	中舞鶴幼稚園	3～5
平成29年6月6日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所	3～5
平成29年6月8日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所	3～5
平成29年6月9日	園巡回(発達支援)	やまもも保育園	3～5

平成29年度　乳幼児教育コーディネーター・乳幼児教育相談員・特

実施日		訪問先	参加人数
平成29年6月15日	園巡回(発達支援)	舞鶴幼稚園	3～5
平成29年6月15日	園巡回(発達支援)	西乳児保育所	3～5
平成29年6月16日	園巡回(発達支援)	中保育所	3～5
平成29年6月19日	園巡回(発達支援)	中舞鶴幼稚園	3～5
平成29年6月20日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園	3～5
平成29年6月22日	園巡回(発達支援)	平保育園	3～5
平成29年6月23日	園巡回(発達支援)	東山保育園	3～5
平成29年6月27日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園	3～5
平成29年6月29日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園	3～5
平成29年6月29日	園巡回(発達支援)	昭光保育園	3～5
平成29年6月30日	園巡回(発達支援)	聖母幼稚園	3～5
平成29年7月4日	園巡回(発達支援)	八雲保育園(私立)	3～5
平成29年7月4日	園巡回(発達支援)	ルンビニ保育園(私立)	3～5
平成29年7月10日	園巡回(発達支援)	永福保育園(私立)	3～5
平成29年7月11日	園巡回(発達支援)	さくら保育園(私立)	3～5
平成29年7月11日	園巡回(発達支援)	中保育所(公立)	3～5
平成29年7月13日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園(私立)	3～5
平成29年7月14日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5
平成29年7月18日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園(私立)	3～5
平成29年7月20日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所(公立)	3～5
平成29年7月25日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5
平成29年8月1日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園(私立)	3～5
平成29年8月4日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5
平成29年8月8日	園巡回(発達支援)	タンポポハウス(私立)	3～5
平成29年8月22日	園巡回(発達支援)	中保育所(公立)	3～5
平成29年8月24日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園(私立)	3～5
平成29年8月25日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園」(私立)	3～5
平成29年9月14日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5
平成29年9月15日	園巡回(発達支援)	倉梯幼稚園(私立)	3～5
平成29年9月22日	園巡回(発達支援)	シオン幼稚園(私立)	3～5
平成29年11月6日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所(公立)	3～5
平成29年11月10日	園巡回(発達支援)	相愛保育園(私立)	3～5
平成29年11月16日	園巡回(発達支援)	中舞鶴幼稚園(私立)	3～5
平成29年11月21日	園巡回(発達支援)	中保育所(公立)	3～5
平成29年11月24日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5
平成29年11月28日	園巡回(発達支援)	中舞鶴幼稚園(私立)	3～5
平成29年12月12日	園巡回(発達支援)	なかすじ保育園(私立)	3～5
平成29年12月12日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所(公立)	3～5
平成29年12月14日	園巡回(発達支援)	舞鶴幼稚園(公立)	3～5
平成29年12月14日	園巡回(発達支援)	うみべのもり保育所(公立)	3～5
平成29年12月15日	園巡回(発達支援)	中保育所(公立)	3～5
平成29年12月19日	園巡回(発達支援)	池内幼稚園(私立)	3～5

園支援・保護者

平成29年8月10日	園訪問(引き継ぎ)	池内幼稚園	2	幼稚園教諭	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成29年10月17日	園訪問(引き継ぎ)	森の子ら幼稚園	2	園長・幼稚園教諭	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成30年2月1日	園訪問(引き継ぎ)	舞鶴幼稚園	1	園長	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成30年2月5日	園訪問(引き継ぎ)	中舞鶴幼稚園	2	幼稚園教諭	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成30年2月14日	園訪問(引き継ぎ)	池内幼稚園	2	主任・幼稚園教諭	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成30年2月15日	園訪問(引き継ぎ)	聖母幼稚園	2	園長・主任	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)
平成30年3月16日	園訪問(引き継ぎ)	森の子ら幼稚園	1	幼稚園教諭	主に保護者支援として公立幼稚園で実施している就園前の親子ルームに参加している子どもの発達や支援方法の状況等を就園先に引き継ぐ(園支援の一貫)